

令和5年度 香川県立丸亀高等学校(全日制)学校評価書

1 本校の教育方針

国家及び社会の有為な形成者として、知・徳・体の調和のとれた、心身共に健全な人間の育成を期する。

特に、文武両道の高校生活を通じて、生徒の創造的な知性を育て、豊かな情操を養い、身体を鍛えるとともに、自主的・自律的な態度や公共の精神を培う教育を推進する。

2 本校の教育目標

- (1) 自ら学び、考え、実践する態度や能力を育成するとともに、個々の生徒に応じた指導により、学力の一層の向上を図る。
- (2) 人格のより良い発達をめざし、自主的・自律的な生活態度や好ましい人間関係を育て、社会の形成に参画し貢献する態度の育成を図る。
- (3) 自己の能力や適性について自覚を促し、進路情報の提供や進路相談等により、生徒一人ひとりの主体的な進路選択の実現を図る。
- (4) 特別活動等における集団生活を経験させることにより、協調の精神や豊かな実践力を養い、個性や体力の伸長を図る。

3 本年度の成果、課題

学 年 団	1	年	団	p. 1, 2
	2	年	団	p. 3, 4
	3	年	団	p. 5, 6
教 科	国 語 科			p. 7, 8
	地 歴 公 民 科			p. 9, 10
	数 学 科			p. 11, 12
	理 科 科			p. 13, 14
	保 健 体 育 科			p. 15, 16
	芸 術 科			p. 17, 18
	英 語 科			p. 19, 20
	家 庭 科			p. 21, 22
	情 報 科			p. 23, 24
	総合的学習の時間(TP)			p. 25, 26
校務分掌	総 務 部			p. 27, 28
	教 務 部			p. 29, 30
	進 路 指 導 部			p. 31, 32
	生 徒 指 導 部			p. 33, 34
	教 育 相 談 部			p. 35, 36
	特 別 活 動 部			p. 37, 38
	人権・同和教育部			p. 39, 40
	保 健 部			p. 41, 42
	教 育 研 究 部			p. 43, 44

4 学校評価アンケート

教員, 3年生, 保護者のアンケート結果の比較(3年間) p. 45~52
令和4年度の集計(記述回答あり) p. 53~58

5 学校関係者評価書

p. 59~61

1 年 団

学年主任：白川 一樹

(1) 今年度の目標

- ① 高校生としての自覚と責任を持ち、基本的生活習慣を確立すること。
 - ・自律的な生活を心掛け、社会のマナーを身につけた良識のある高校生であることを目指す。
- ② 授業を中心に据えた自主的学習習慣をつけること。
 - ・家庭学習時間を確保し、自身の進路を見据えた計画性のある学習ができるようにする。
- ③ 目標、志を高く持ち、充実感と達成感を得られる高校生活にすること。
 - ・学級活動、部活動、生徒会活動、学校行事や校外でのボランティア活動などに積極的に参加し、協調性、社会性や品格を養う。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 学校生活を基本にした生活習慣、学習習慣を確立させる。
 - ・日常生活のリズムが学習の土台でもあることを意識させるため、欠席、遅刻、早退、服装指導等、保護者と連絡をとりながら丁寧に指導していく。
 - ・面接指導で、生活時間調査等で自分の生活を振り返らせ、目標を高く持ち、時間を有効に使わせる工夫、意識を持たせる。
 - ・校内の各分掌と生徒の情報の共有を図り、指導に役立てる。必要に応じて、外部の専門機関とも連携をする。
- ② 自ら進路目標を設定し、目標の実現に向けて学習する。
 - ・適切な時期に適切な情報を与え、進路に関する選択と目標設定を支援する。
 - ・自主的に学習に取り組む態度を育て、予習、復習（自宅学習）の習慣を確立させる。
 - ・講演会、大学訪問、オープンキャンパス等を通して、進路実現に向けて意識を高める。
 - ・タブレット端末を有効活用させる。
- ③ 積極的に学校行事や部活動、ボランティア活動に参加させる。
 - ・部活動に積極的に参加させ、心身を鍛えるとともに仲間との連帯意識を育てる。
 - ・運動会や津島杯、斯文祭などの学校行事を通して、クラスの一体感を盛り上げさせる。

(3) 成果

①学校生活を基本にした生活習慣、学習習慣を確立させる

- ・新入生オリエンテーションでは、国語・数学・英語の3教科について、丸亀高校での学習、特に予習・復習の仕方を説明し、家庭学習の重要性を指導した。併せて、休まず遅れず毎日学校に登校して授業を受けることの大切さを強調した。
- ・本年度はシステム手帳（スコラ手帳）の採用を見送った。教員から指示されるのを待つのではなく、自らスケジュールを作成管理し学習や様々な学校活動に取り組んでいけるよう、健康管理を含めた自己管理の重要性について話をした。行事予定や授業課題などを、手帳を取り出してメモを取る姿が見られた。
- ・生活時間調査を実施し学習時間の確立を促した。1日の平均学習時間は6月が2.8時間、9月が2.5時間となった。昨年よりは若干増加しているが、まだまだ十分とは言えない。また、昨年度よりClassiでの入力になったが未入力の生徒も多く、学習時間の確立のためには前段階として全員が入力できる指導の徹底が必要である。

②自ら進路目標を設定し、目標の実現に向けて学習する

- ・TPにおいて、探究活動の方法を学びながら、自ら問題点を発見し、その解決策を模索しながら主体的に取り組むことができた。またタブレット端末を積極的に活用して調査やプレゼンテーションを行い、教科の学習では学べないことを学ぶことができた。
- ・難関大学受験対策セミナーを開催し、難関大学および医学部を志望する生徒を対象に国数英の授業や勉強方法および難関大学の入試情報などに関する講座を実施した。

③積極的に学校行事や部活動、ボランティア活動に参加させる。

- ・殆どの生徒が部活動や生徒会活動に参加し、積極的に活動している。勉強との両立が難しく悩んでいる生徒もいるが、このような活動から得られるものも多いので、積極的に取り組むよう勧めた。また、校外でのボランティア活動も勧めた。
- ・コロナ禍が明け以前と同様の活動が可能になり、運動会・津島杯・斯文祭等の行事では生徒同士が協力して活動することができ、クラスの親睦も深まった。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・家庭学習が不十分であったり、与えられた課題はこなせていてもそれだけで満足したり、また自ら課題を見付けて学習に取り組むことができる積極的な学習態度が乏しい生徒が多く見られた。引き続き面談等を活用して、生徒自身が目標を立て、モチベーションを維持しながら地道に学習していくよう働きかける。
- ・東大、京大のキャンパスツアーは生徒にとって進路を考える上で効果が高いので、ぜひ継続していく必要がある。より効果を上げるために、事前の指導も充実させる必要があると思われる。生徒個々が自身の進路希望に応じてオープンキャンパスに参加するよう促していきたい。
- ・教育相談上、配慮の必要な生徒が増えてきている。今後、減少することは予想されにくい。入学後の環境の変化の変化をきっかけに、想像していた高校生活と現実とのギャップに悩むケースが多い。また、周囲との人間関係の構築に苦労する生徒もいる。学級担任を中心に、保護者や出身中学校・医療機関等とも連携して、教育相談部をはじめ、学校全体として情報を共有しながら、適切な指導や支援に努める。また、校外の関係諸機関とも連携を図っていきたい。

2 年 団

学年主任：村上 幹子

(1) 今年度の目標

- ① 2年生としての自覚を持ち、規律ある高校生活を送る。
 - ・自主的、自律的な生活を心がけ、自分の言動に責任を持つ。
- ② 進路の具体的な目標を持ち、主体的な学習をする。
 - ・家庭学習の時間を確保し、目標実現に向けて効果的な学習をする。
- ③ 部活動や特別活動に意欲的に取り組み、充実感と達成感を得る。
 - ・部活動や修学旅行・斯文祭などの学校行事に積極的に参加して、未知なる自己実現を図る。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 授業態度、服装、言動など基本的な生活習慣やマナーについて学年全体で取り組む。
 - ・基本的な生活習慣が確立していることが最重要であること自覚させる。
(服装検査・遅刻指導などの生活態度は、教員が共通意識を持ち、粘り強く指導する。)
 - ・学習計画表や生活時間調査、夏休みの生活時間調査等を有効に活用させ、PDCAを実践させる。
 - ・面接指導を効果的に実施する。つまずきの発見や悩み等を早期に発見する。聞き取りを通じて生徒の内面に寄り添う指導を行い、人間的に成長させる。
- ② 学力に関して、面接等を重視し、個に応じた指導をする。
 - ・授業を大切にさせ、十分な学習時間が取れるよう計画を立て実践させる。
 - ・受験情報雑誌を適宜紹介するだけでなく、自分で必要な情報を探す力をつけさせる。進路ホームルームなどを利用し、『進路の手引き』、タブレットをこれまで以上に活用する。
 - ・定期試験、学力テスト、校外模試での振り返りを重視し、目標到達を意識した学習を促進させる。
 - ・オープンキャンパスや難関大セミナーへの積極的な参加を促し、進路意識を高めさせる。
 - ・「進路だより」や「学年だより」を効果的に発行し、どの時期に何をすべきかのアドバイスを与える工夫をする。
 - ・3学期を「3年0学期」と位置付け、受験生としての自覚を持って学習に取り組ませる。
- ③ 学年・クラスの和を大切にし、学校行事に積極的に参加させることによる人間的な成長を促す。
 - ・部活動の中核となって活動させる。(先輩や後輩との人間関係)
 - ・学校行事(運動会、斯文祭、津島杯、特に修学旅行など)に積極的に参加させる。
 - ・その他の企画(高大連携事業や講演会など)に積極的に参加させる。

(3) 成果

① 2年生としての自覚を持ち、規律ある高校生活を送る。

- ・大半の生徒が基本的な生活習慣を身に付けており、授業態度も概ね良好であった。生活時間調査を実施し、毎日の生活を振り返るとともに学習時間の確立を促した。
- ・面接週間だけではなく、必要に応じて生徒との面談を行い、個々の生徒に寄り添う指導に努めた。欠席の場合や学校での生徒の様子について、保護者への連絡を密にし、生徒指導部、教育相談部、養護教諭やスクールカウンセラーとの情報交換を行った。連携して指導に当たることで、教員間で生徒が抱える問題を共有することができ、その後の対応に役立てることができた。

② 進路の具体的な目標を持ち、主体的な学習をする。

- ・ほとんどの生徒が授業を大切にできた。進路説明会や各講演会、進路HRを通して、各自が志望校や進路について考えることができた。
- ・東大、京大キャンパスツアーや、岡山での難関大合宿などに、特に進路意識の高い生徒が参加した。
- ・1日の平均学習時間については、入力人数の少なさや入力日数のばらつき等、やや正確さを欠くデータではあるが、6月2.5時間、9月2.0時間と過去5年間で最も少ない時間であった。長時間勉強する生徒が増えている一方、1時間未満の生徒も増えている。ただ、3学期の初めの「0学期宣言」後、雰囲気の変化を感じる。
- ・授業におけるタブレット端末の活用については、2年目ということもあり、授業者も生徒もだいぶ慣れてきた。課題の提出や添削、添削した課題の共有など、場面や目的に応じてICTを活用することができた。
- ・TPでは、タブレット端末を積極的に活用して、アンケート調査やプレゼンテーションを行い、その成果を発表することができた。

③ 部活動や特別活動に意欲的に取り組み、充実感と達成感を得る。

- ・すべての学校行事を行うことができた。斯文祭を始め、2年生が中心となり活躍する場面が見られた。クラスの和を大切に、積極的に取り組むことができた。
- ・修学旅行は予定通り実施することができた。3泊4日で南信州、北陸を訪問し、香川とはまた違った文化や自然を体験することができた。また、集団行動の意義や仲間との絆を育むことができた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・教育相談上配慮の必要な生徒も多いため、学級担任を中心に、保護者や教育相談部、場合によっては医療機関とも連携して学校全体で生徒を支援していく。また、真面目ではあるが、受動的な学習態度になって成績が伸び悩み、そのことで不安定になる生徒も増えてきている。そのような生徒に対しても、保護者との連携を図りながら、受験に向けて安定した学校生活を送ることができるように支援を継続する。
- ・これまでの振り返りと、明確な進路目標の設定を促すことで、生徒の学習の自走化に繋げたい。

3 年 団

学年主任：山田 芳紀

(1) 今年度の目標

- ① 3年生としての自覚を持ち、心身の健康に留意して、規律ある高校生活を送る。
 - ・自主、自律的で健康な生活を実践し、協調的態度を育成する。
- ② 進路目標を高く掲げ、実現する。
 - ・進路を明確にし、目標実現に向けて効果的な学習をする。
- ③ 豊かな人間性を涵養する。
 - ・社会生活における役割や自己責任を自覚し、深く豊かな人間性を育成する。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 3年生であることを自覚し、自律的で健康な生活が送れるよう支援する。
 - ・言葉遣いや服装・態度、時間や約束の厳守などの基本的な生活態度が適切であるか、機会あるごとに指導する。
 - ・人間関係や進路など生徒の悩みや不安を注意深く察知し、心身ともに健康な学校生活を送ることができるよう、生徒との面談や保護者との連携、および校内連携により支援する。
- ② 主体的に進路目標が実現できるように支援する。
 - ・進路説明会や懇談会を充実させることにより、生徒と保護者が共通理解の下で進路を決定できるようにする。
 - ・三者懇談や面接などを通して、進路を明確にさせる。
- ③ 好ましい人間関係を築かせて、社会生活を営む力の向上を支援する。
 - ・学ぶことの楽しさを追究するとともに、社会の動きを知り、周囲の人々の気持ちに配慮できるような広い視野を持たせる。
 - ・運動会、津島杯（クラスマッチ）、遠足などの学校行事に積極的に参加させることによって、好ましい人間関係を築かせ、協力・協調の精神を養う。

(3) 成果

① 3年生であることを自覚し、自律的で健康な生活が送れるよう支援する。

- ・時間を守ったり迅速に行動したりすることなどを折にふれて指導した。
- ・欠席の場合などに保護者への連絡を密に取ることや、学校生活アンケートを受けての対応、スクールカウンセラーも含めた校内連携、および日頃の観察・声かけ・面談等により、生徒の悩みなど心身の健康面に関して適切な対応ができた。

② 主体的に進路目標が実現できることを支援する。

- ・5月の進路説明会には8割を超える保護者に参加していただき、最新の大学受験の情報を提供することができた。
- ・進路説明会や進路HRを通して、生徒が進路の情報を収集し、主体的に各自の進路について考え志望校を決めることができた。「進路だより」や「学年団だより」も受験勉強への取り組みや心構え等について情報を提供することができ、効果的だった。
- ・受験に関する冊子やアドバイスの言葉をHR教室に展示するなど、日頃から生徒が受験に対するモチベーションを高めクラス全体で受験に向かう雰囲気ができるように、担任が教室内の環境作りに工夫を凝らした。
- ・受験勉強の基礎は授業にあることや、家庭学習の時間が学力伸張に大きく左右することを強調した。Classiによる生活時間調査の平均学習時間は、6月3.3時間、9月5.6時間と、徐々に増えてきた。
- ・塾の自習室を利用する生徒が多い中、6月の総体後、学校でも自習室を設け、通常の下校時刻の後も18時30分まで残って勉強できるように環境を整え、生徒の受験勉強を支援した。また、2月の家庭学習中も生徒がそれまで同様の学習スタイルで勉強できるようにHR教室を開放するとともに、空調の入った自習室や各教科の先生方が添削指導できる教室を設定した。利用者も多く、質問や個別試験の添削指導を受けながら勉強している。
- ・1年次より一貫して、志望を高く持つよう指導をしてきた。進路HRや面接・懇談では、志望を貫くことの大切さを説くとともに、個別に悩みを抱える生徒には担任が十分時間をかけて面接をするなど、生徒の進路実現を支援した。ほとんどの生徒が、本人・保護者・担任の三者の中で納得できる出願をすることができた。
- ・面接週間（4月、9月）だけでなく、校内・校外模試の成績返却時にも面談を行うなど、生徒の状況に応じて面接や個人指導を実施し、生徒が納得のいく進路決定を行い、受験勉強できるよう支援した。また、受験に即した面接や小論文、添削指導にもHR担任、教科担当をはじめ多くの教員が時間をかけて熱心に指導にあたり、生徒の進路実現を支援した。
- ・1学期末、2学期末保護者懇談に加え、共通テスト後の懇談会を実施し、進路について三者が十分話し合うことができた。特に、共通テスト後の懇談会は、国公立大学出願校の最終決定や私立大学出願の最終確認という大事な懇談ということもあり、該当する生徒・保護者が全員出席した。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・学習時間は徐々に増えていったものの、もともとの学習時間が少なかったためか、受験に向けての学習の取り組みが追いつかない生徒もいたようである。
- ・学習や成績に対する不安から心身に不調をきたし欠席する生徒が増えた。個々の生徒の状況をよく観察し、保護者との連絡を密に校内での連携を図りながら、早めの対応が重要である。

国 語 科

主任：小山 初美

(1) 今年度の目標

- ① 論理的な読解力の向上
- ② 古典読解力の向上
- ③ 読書指導の強化

(2) 主な取り組みの計画

- ① 論理的な読解力を向上させるための指導を工夫する。
 - ア 授業で論理的な文章を教材として積極的に使用する。
 - イ 評論文を要約させることを繰り返すことにより、論理的な思考を養成する。
- ② 古典読解力を向上させる。
 - ア 基礎力テストを利用し、動詞→形容詞・形容動詞→助動詞→助詞→敬語という段階を踏んで学習させ、読解の助けとさせる。
 - イ 日本語における文末表現(助詞・助動詞・補助動詞等)の微妙な差異に気づかせ、現代語訳を注意深く行うことの重要性に気づかせる。
 - ウ 学力テストや、本校教員の作成した独自教材を用いて、より多くの古典に触れさせる。
 - エ 生徒に予習をして授業に臨み、授業後は復習するようにうながす。
 - オ 効果が期待できる場面では、適宜ＩＣＴ機器を利用して、指導の助けとする。
- ③ 生徒が図書に触れる機会を増やす。
 - ア 図書室の利用を促す。
 - イ 読書の記録や読書感想文を利用し、長期休業中にも図書に触れる機会を増やす。

(3) 成果

- ① ア 教科書教材において、現代文では評論文に重点を置いた。
イ 評論文の問題演習、百字要約等に定期的に取り組み、各自で添削や採点を行わせた。
- ② ア 1年生では動詞・形容詞・形容動詞・助動詞及び基礎的な漢文句法、2年生では助詞・敬語及び漢文句法の基礎力テストを、計画的に実施した。
イ 助詞・助動詞といった付属語の読解における重要性を理解させるため、古文の予習では自分で付属語を指摘した上で口語訳をするように、特に指導した。
ウ 1年生については、新教育課程になって古典分野を扱う授業時間が減少した。少しでも多くの作品に触れさせるため、長期休業中に、説話や随筆を出典とした問題演習に取り組み、古典に親しむ機会を設けた。2年生では、古典常識をテーマにした本校独自に作成した教材に取り組みさせた。継続的に自分の力で読む経験を積むことで、古典への興味を喚起するのにも役立った。
エ 「予習・復習」については、古典分野で特に向上が見られた。「行っていない・あまり行っていない」層が、1年言語文化で7月には17.5%だったが、12月に9.2%と減少、3年古典Bでも7月16.1%から12月8.0%と、意欲的に予習・復習に取り組むようになってきた様子が、数字の上でも確認できた。
オ 事前に意味調べやのワークシート等に取り組み、授業後は要約をさせるなどして授業の定着を図る取り組みを行った。
カ 本文や資料をホワイトボードに投影して理解の助けにしたり、ロイロノートを活用して記述問題の答を提出箱に出させたりなどした。
- ③ ア 1年生初めにクラス単位で図書室ガイダンスを行った。さらに授業で扱った教材に関連した図書室の書籍を紹介したり、教科書で学習した作品に関連した書籍を、図書室で購入していただいたりなど、図書室とも連携して読書指導を行った。
イ 読書指導に関しては、今年度も夏休みに「読書感想文」を、また、春・夏・冬の長期休業中には「読書の記録」を課題に設定することで、生徒に読書を促すことができた。「読書の記録」の中の推薦図書リストには、本校生徒の貸出回数の多い本も併せて紹介し、最新の情報に更新できている。「読書感想文コンクール」においては、今年度も本校生徒の作品が県審査で高い評価を得た。

(4) 課題と次年度以降の改善策

大学入学共通テストでは、本校平均点は、中間発表平均点に対し28点近い得点差をつけ、今年も健闘したといえる。

学力テストは、1・2年生とも特定の範囲を設定しない出題であり、日頃の学習の成果がダイレクトに成績に出るため、生徒も授業や家庭学習の重要性を感じるようになってきたと感じる。校外模試は、2年生11月の成績は7月58.7から11月60.3と伸び、過去5年間で最もよい成績である。難関大を目指せる上位層も例年より多く、下位層も減少している。1年生では、例年7月から11月で偏差値が下降する傾向があるが、58.8から60.3へ上昇しており、同時に下位層も減少している。今後は、教科からも難関大セミナー参加を促す声かけをしたり、学習方法の相談に個別に応じたりするなどして、さらに難関大学を目指せる層が増えることを期待したい。一方で、古典基礎力テストの成績不振者が固定傾向にあるため、生徒に文法・句法の基礎を身につけることの大切さを根気強く説き、下位層の学力の底上げも図りたい。

地 歴・公 民 科

主任：原 利津子

(1) 今年度の目標

- ① 社会事象に関心を持ち、自ら学び考え、自分の身の回りを含む社会をよりよくしていこうとする態度を養う。
- ② 現代社会における諸問題の社会的背景や要因について、自ら探究し、表現する力を養う。
- ③ 地理・歴史・公民分野について幅広く関心を持ち、それぞれの科目で基本的な知識を定着させるとともに、身につけた知識を総合的に活用できる力を養う。

(2) 主な取り組みの計画

- ① ア 授業で、時事問題を取り上げる時間を適宜設け、生徒の関心を喚起する。
イ 授業内容と生徒の身の回りで起こっている事象との関連に気づかせ、授業内容を自分の身近なものとして考えさせる。
- ② ア 現代社会における諸問題について考察する際の参考となるように、新聞のコラム欄や図書を紹介したり、タブレットでの情報検索をうながしたりする。
イ 適宜、アクティブラーニングを授業に取り入れ、主体的に学習に取り組めるようにする。その際、タブレットを有効活用する。
- ③ ア 教員間で連携を図り、各科目の学習内容について確認できるようにする。
イ 授業の学習内容と、他の科目の既習事項とのつながりに気づかせ、知識をより深められるようにする。

(3) 成果

①ア 各科目において授業の導入等で、現在、世界で起こっているニュースや生徒の身の周りで起こっているできごとについて触れる機会を適宜設け、さまざまな社会事象への関心を喚起できた。

イ 授業内容と現代社会のできごとを関連させて考えさせることにより、つながりを実感できる生徒が増えてきた。授業評価アンケートの自由記述欄にも「ニュースを分かりやすく解説してくれたのでよく分かり、授業にもやる気が出た」等の記述も見られた。

②ア タブレットを使って身近な情報を活用することで、授業内容や社会的事象に対する興味関心の向上が見られた。歴史では、芸術作品を検索したり、授業内容と現代のニュースのつながりを持てるようにした。地理では、地図やデータ、Google Earth等のアプリを多用し、地理的事象について視覚的に理解できるようにした。また、政治・経済では、各国の社会保障制度を検索・比較し、日本の社会保障制度の特色や課題をまとめた。授業アンケートでは、「プリント、補助資料、ICT機器の利用など、授業内容を理解しやすいように工夫している」を「あてはまる」と回答した生徒が、第1回では85.2%、第2回をでは92.0%と増加しており、授業内容への興味・関心を高めたり、理解を深めたりするための工夫に成果を見ることができた。

イ 主要な歴史的事象および地理的事象について発問したり、さまざまな資料を提示したり、タブレットでの検索を促して考察、発表を行うなど、主体的に活動し、思考力、判断力、表現力を養うことを意識して授業を行った。地理総合では、グループで世界各地の特色を調べ、ツアーを計画し、発表し合った。政治・経済では、タブレットを使ってさまざまな金融商品の種類やしくみ、リスクとリターンを学び、人生設計と資金計画の必要性について理解を深めることができた。限られた授業時数の中で討議を行うまでの時間の確保は難しいため、各自が思考した結果をノートにまとめ、教員が全体に紹介することで共有する方法をとった場合もある。

③ア 昨年度に引き続き、各科目の授業内容について担当者間で確認する機会を設け、科目間で知識を補い合ったり、授業内容の精選につなげたりした。

イ 日本史と世界史、世界史の現代分野と政治・経済など、科目間で学習内容の関連が深い単元では、進度を確認し、後で学習する科目の授業で発問をしたり、確認をさせたりすることで、限られた授業時数の中で知識を深められた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・ 討議などアクティブラーニングを行うために必要な知識理解のための時間を、視聴覚教材、補助プリント等を活用して確保したい。また、タブレットを用いて生徒どうしの意見を交換する機会を増やすとともに、活用方法について研究し、生徒の思考力・表現力の向上につながるようにしたい。
- ・ 大学入学共通テストにおいて、さまざまな資料を用いた問題がさらに増える傾向にあるので、授業の中で資料にふれる機会を設けたり、学力テストや校内模試において出題したりして、対応力を身につけさせたい。

数 学 科

主任：岡田 道有

(1) 今年度の目標

- ① 自主的学習習慣を確立させる
- ② 基礎学力を充実させる
- ③ 個に応じた指導で、学力上位層を伸長、下位層を底上げする
- ④ 新時代に対応し、数学的な見方や考え方を活用できるようにする。

(2) 主な取り組みの計画

- ① ア 入学当初のオリエンテーションで、予習復習の方法を具体的に示すことにより、家庭学習習慣を身につけさせる。
イ 1・2年生に対しては確認課題を実施することにより、生徒の学習習慣を確立させる。基礎学力の定着および授業の理解度の向上を図るとともに、発展的な学習を促す。
ウ 学力テストでの幅広い難易度の出題により、基礎的内容を確認させるとともに、発展的な学習に計画的に取り組む姿勢を持たせる。
- ② 定期試験、学力テスト後に訂正ノートの作成を課し、学習内容の理解と定着を促す。
- ③ 2年生に対して、少人数習熟度別授業で生徒の習熟度に対応したきめ細やかな指導を行うことにより、個々の生徒の理解度や数学に対する興味関心を高める。
- ④ ア I C Tの活用とグループでの課題解決学習を通して、双方向の授業を展開する。主体的で深い学びになるように努力する。
イ 試験問題に共通テストを意識した思考力を培う問題を出題する。

(3) 成果

- ①自主的学習習慣の予習・復習ができている生徒は、1学期76.5%が2学期には、81.7%と向上しているようだ。
- ②基礎学力を充実させるため、単元ごとの課題プリントを数学科全体で取り組ませているが、提出物を出している割合も1学期77.2%から、2学期には81.2%と上昇している。
- ③2年生に対して、少人数制習熟度別授業を実施しているが、生徒のレベルに合った授業展開ができている。基礎を丁寧に指導することで、下位層の底上げをし、また、数学に興味を持っている生徒には、発展的な内容に触れさせることができている。
- ④数学的な見方や考え方を養うために、テスト問題にも、思考力を要するような問題をその都度出題し、共通テストのような長い文章題にも慣れさせることができている。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ①ア 入学当初のオリエンテーションでは、予習復習の方法を具体的に指導しているが、やることが多い中でも授業日には必ず復習するような習慣をつけるよう根気強く話し、理解の定着を感じられるよう取り組ませたい。
- イ 確認課題については、提出率も上がって、基礎学力の定着や、授業の理解度の向上が図られているが、提出して終わりとなっているので、繰り返し取り組ませることが必要である。また、記述力を養うためにも、個々の添削が必要で、丁寧に見て返却することも生徒のやる気につながるものと思われる。
- ウ チャート（参考書）を中心に範囲指定して問題作りをしている。範囲の中から30題を宿題として提出させると、全問題を網羅しているものが少なく、発展的な学習に計画的に取り組むことを根気強く話すことを続ける必要を感じる。
- ② テスト後の訂正ノートの提出率は上がっているが、理解不十分のまま、解答を丸写しにしているものも少なくない。反省することによる振り返りを定着させ、苦手分野の克服につながる個に合ったコメントを返し、諦めずに取り組ませたい。
- ③ 習熟度の低い生徒には、基礎力アップの演習を取り入れ、習熟度の高い生徒には、チャートや大学入試問題にも触れながら、興味を持たせ、より高い到達点を目指すような指導をしていきたい。
- ④ア タブレット端末を使って教材の発進や、演習課題の回収など取り組んでいるところである。主体的で深い学びにつなげるには、更にどのような利用が考えられるか、教科の中でも連携や共有を深めていく必要がある。また、ホワイトボードでの授業展開も試行錯誤中で教員同士の情報共有もしながら、より良い授業展開を模索していきたい。
- イ 共通テストの傾向を分析し、定期テストや、学力テストの問題にも、会話形式や、長文読解の問題を取り入れ思考力を培うような問題作りをしていきたい。

理 科

主任：久保 博信

(1) 今年度の目標

- ① 自然現象に関する興味関心を育てる。
- ② 思考力や判断力、表現力を向上させ、自ら科学的に探究しようとする態度を養う。
- ③ 基礎的な学力を養う。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 自然現象に関する興味関心を育てるために
 - ア 実物にふれる機会や実験などを多く設けたり、最新の研究や身近な内容にも触れたりする。
 - イ ICT教材を使用し、写真や動画などを提示することで、興味関心を高めさせるとともに、より深い理解を目指す。
 - ウ 授業や校内掲示、パンフレット配布などを通じて、様々な科学賞や大学の高大連携企画等を紹介し、参加を促す。
 - エ 科学の甲子園や科学オリンピック等に興味を持つ生徒を募り、参加を呼びかける。
- ② 思考力や判断力、表現力を向上させ、自ら科学的に探究しようとする態度を養うために
 - ア 講義や実験などで仮説を立てたり、考察したりする機会を多くとる。
 - イ ペアワークなどアクティブラーニングの手法を用いて言語活動を活発に行い、論理的に考え、表現する力を養う。
 - ウ 疑問に対する仮説、立証するための実験などをレポートとして課し、科学的な探究心や学びに向かう力を育成する。
- ③ 基礎的な学力を養うために
 - ア 小テスト（確認テスト）を実施する。
 - イ 定期的に課題を課すことで、授業の進行と合わせた家庭学習による基礎的な学力の定着を促す。
 - ウ 定期試験・校内模試・学力テストなどのテスト直しを各自でまとめさせる。

(3) 成果

- ①ア 化学物質や生物体内にある酵素などに実際に触れる実験の機会を多くとり、その中から最新の技術に繋がることを考察させた。また、糖のモデルを組み立てたり、遺伝子組換えや解剖、モーターの作製、地球の大きさの測定するなど、理科全体として積極的に実験を行った。
- イ 教科書のQRコードを利用することで、動画などを提示できるため、理解を深めるために取り入れた。また、実験データ処理においては、コンピュータソフトを利用することが効果的であった。
- ウ 1年生・2年生理系クラスで高校生対象の科学講演会、高大連携企画等の周知(パンプレットの配布・掲示)を行った。
- エ 「科学の甲子園」に参加した。昨年参加した生徒が今年度も継続して参加し、実験を活かした取り組みを行った。全国大会出場こそかなわなかったが有意義な活動であった。
- ②ア 授業の中で得られた知識やデータをもとに、いわゆるアクティブラーニングを通して生徒自身による考察を行わせた。大学入学共通テストの問題傾向への対応の一助となっている。
- イ アクティブラーニングの手法を用い、専門用語を使用した言語活動を通じて考察する過程で、理解が深まる学習スタイルが定着している。また、ペアワークを行うことで、自己の理解をよりはっきりとさせることができた。
- ウ 実験プリントの提出に合わせて、自己の疑問点に対して仮説を立て、それを考察させた。この科学的思考の流れの疑似体験が、教科書記載実験の研究者の思考の流れを理解しようとする意欲につながっている。
- ③ア 授業のはじめ、途中、または、重要単元を学習した後に、小テストを実施した。また、再テストも実施し、理解が不十分な生徒への対応も行った。また、発問を工夫して授業中の理解を高めた。
- イ 併用問題集を定期試験ごとの提出物とするとともに、単元ごとに問題集に取り組むタイミングを細かく指示し、授業の流れに沿った家庭学習を促した。また、長期休業中もレベルに応じて問題集を指定し、提出することを課題とした。
- ウ 試験の解説を充実させることで、定期試験、学力テストを繰り返し解く意欲の向上をはかった。これは基礎的な学力の定着につながっている。また、復習のリズムづくりにも効果的であった。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・大学入学共通テストの傾向では、実験データから考察させる問題が多く出題されている。細かな知識を統合して理解する力を試されているため、授業においても、引き続きその点を重視して展開していきたい。
- ・アクティブラーニングの手法はかなり効果的である。例えば、その日の授業内容に関する教科書の記述をペアワークを通して一度言語化させると、その日の内容理解が促進されることがよくわかる。引き続き研究したい。
- ・教科書のQRコードから解説や実験の動画を活用するためにも基本的な概念の徹底を進めていきたい。

保健体育科

主任：亀野 克城

(1) 今年度の目標

- ① 選択した種目の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- ② 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- ③ 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

(2) 主な取り組みの計画

- ① ア 選択した種目で学ぶ技術の名称やその行い方、主体的な学習を行う上での課題解決の方法を理解させる。
イ 個人生活のみならず社会生活との関わりを含めた健康・安全に関する内容を総合的に理解することを通して、生涯を通じて健康や安全の課題に適切に対応できるようにさせる。
ウ 運動の楽しさや喜びを深く味わうための運動の技能を身に付けさせる。
- ② ア 選択した種目の特性を踏まえて、動きや技などの改善についてのポイントや課題を発見させる。また、健康にかかわる事象や健康情報などから自他の課題を発見させる。
イ 選択した種目に関わる一般原則や運動に伴う事故の防止等の科学的な知識や技能を、自己や仲間の課題に応じて学習場面に適用、応用させることや、課題解決の過程などを活用して新たな課題発見・解決につなげさせる。また、自他のみならず社会を含めた健康に関する課題について、習得した知識及び技能を活用し、解決方法を考えるとともに、様々な解決方法の中から適切な方法を選択するなど、よりよい解決に向けて判断させる。
ウ 自己や仲間の課題について、思考し判断したことを、言葉や文章及び動作などで表したり、仲間などに理由を添えて伝えたりさせる。
- ③ ア 選択した種目の特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを深く味わおうとする主体的な態度、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にするなどの意欲や健康・安全への態度を系統的に育むことにより、運動との多様な関わり方を状況に応じて選択し、継続して実践できるようにさせる。
イ 自他の健康やそれを支える環境づくりの大切さを認識し、健康の保持増進や回復等に主体的・協働的に取り組み、健康で豊かな生活を営む態度を育成させる。
ウ 選択した種目を適切に行うことによって、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、心身の調和的発達を図らせる。
エ 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力、健康の保持増進の実践力及び健やかな心身を育てさせる。

(3) 成果

①に関連したアンケート結果でみると「ルールやマナーを大切にし、公正に取り込むことができた」83.5%↑、「運動の楽しさや喜びを感じることができた」81.7%↑、「運動を見ることがや知ることを楽しむことができた」78.5%↑、「体調に応じて運動量を調整したり、用具の状態やその場の状況が安全かを確認したりすることができた」69.9%↑、「個人及び社会生活における健康・安全について理解することができた」76.1%↑という結果であった。

②に関連したアンケート結果でみると「課題を発見し、改善のための練習や作戦の考え、実践し、評価することができた」68.3%↑、「自己や仲間の課題について考えたことを言葉や文章にしたり、他者に伝えたりすることができた」55.6%↑、「自らの意志を伝えたり、仲間の意見を聞き入れたりすることができた」67.8%↑、「健康についての自己の課題や社会の課題を発見し、解決に向けて考えることができた」69.6%↑という結果であった。

③に関連したアンケート結果でみると「運動の技術や高め方について理解し、実践することができた」67.6%↓、「授業中や生活の中で、自己の体力に応じた運動の計画を立て、取り組むことができた」54.7%↑、「技術や体力の違いに配慮し、助け合ったり、教えあったりすることができた」70.9%↑、「役割を積極的に引き受け、責任を持って取り組むことができた」66.3%↑という結果であった。

(4) 課題と次年度以降の改善策

①アンケート結果では、ほとんどの生徒が目標を達成し、全ての項目で上昇した。しかし「体調による運動量の調整」については今年度も70%を下回っており、授業中は特に生徒の体調を把握し、次年度はもう少し向上できるように実践していきたい。

②アンケート結果では、全ての項目で上昇し、全体で昨年度より3%上昇したが、本年度も平均すると65.3%の生徒しか目標を達成することができなかった。特に「自己や仲間の課題について考えたことを言葉や文章にしたり、他者に伝えたりすること」は昨年より4%上昇したが、本年度も低く60%を下回った。次年度も生徒間のミーティング時間を増やし、教員もアドバイスができる環境をつくれるように実践していきたい。

③アンケート結果では、ほとんどの項目で上昇したが、本年度も平均すると64.5%の生徒しか目標を達成することができなかった。特に「授業中や生活の中で、自己の体力に応じた運動の計画を立て、取り組むこと」は昨年より3%上昇したが、本年度も55%を下回った。次年度も体育、保健の授業の両面から自分の体力を把握させ、自分の体力にあった計画が立てられるように実践していきたい。

芸 術 科

主任：藤田 貴子

（１）今年度の目標

- ① 音楽・美術・書道それぞれの特質について理解し、意図に基づいて表現するための基本的な理論や基礎的な技能を身に付けさせる。
- ② 年度末の「学習成果発表会」に向けての活動の中で、創る喜びと発表する達成感を味わわせ、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育むとともに、生活の中で芸術を楽しませるようにする。
- ③ 学習効果を高めるために、ＩＣＴの効率的な活用について研究を深める。

（２）主な取り組みの計画

<音楽>

- ① 音楽理論の学習や器楽、歌唱における演奏技術の習得において、全体での取り組みに加え個別に目標を設定させ、基礎的な力を身に付けさせるよう工夫する。
- ② 選曲、編曲、パート分けを工夫し、それぞれに目標を設定し、練習内容を明確にして本番の舞台上で演奏することを意識した取り組みを行うよう指導する。
- ③ タブレットの録画機能を用いて、自身の演奏を客観的に振り返る機会を設けたり、アプリの利用でグループ発表の意見を共有したりすることで学習効果を高める。

<美術>

- ① 美術の基本的な内容を復習しながら、より発展的に美術概論を取り入れた指導する。
- ② 美術史の中で多種多様な作品に触れ、自分の表現に合う表現材料、表現方法を模索し、計画性をもって作品制作に取り組ませる。
- ③ 教授資料の提示、活動の記録などでタブレットを活用し、個々に高画質で資料が見られる環境を作り、振り返りを行うことで学習を定着させる。

<書道>

- ① 書写から書道へスムーズに移行できるよう個別指導に重点を置き、生徒自身による目標設定や他の生徒との相互鑑賞など、主体的に活動できる雰囲気をつくる。
- ② 創作の手順を理解し、意図をもって表現することの喜びや達成感を味わわせるとともに、身近な生活の中にも様々な書があることに気付かせる。
- ③ 作品制作過程や制作後の鑑賞などでタブレットを有効に活用し、次の作品制作に生かせるようにする。

(3) 成果

<音楽>

- ① 毎時間、個別に授業の振返りを記入し、次時の目標を設定することで技術の定着を図った。
- ② 立候補制で生徒が素晴らしい編曲を行った。パート練習時間の確保で音のまとまりを意識して、本番のホール演奏でも響く音をイメージした練習を行うことができた。
- ③ タブレットを用いた録画機能活用により、客観的に自身の演奏を振り返ることができた。

<美術>

- ① 様々な表現方法において、それぞれの魅力について理解し、表現に取り入れることができた。
- ② 発表の場があることへの楽しみを感じながら、自分らしい表現を求めて制作に取り組めた。
- ③ 鑑賞活動において、全員が一斉に同じ作品を細部まで鑑賞することができた。

<書道>

- ① 目標設定と振返りの時間を取ることで、次の時間に向けての個々の課題をより明確にすることができた。
- ② 相互鑑賞の機会を増やし、お互いに出し合った意見を自分の作品に取り入れることができた。
- ③ タブレットで自分の作品を継続的に保存し、時間の経過とともに変化していく作品を鑑賞することにより、以後の作品制作に生かすことができた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

<音楽>

よく集中して授業に臨むことができているが、アンサンブル能力を強化することでさらに充実した響きを得られるようにさせたい。他者評価の時間を増やすことや効率のよいグループ練習の設定により技術を向上させ、より豊かな音楽表現を目指したい。

<美術>

少ない制作時間で完成度の高い作品を目指すために、制作手順や段取りなどを丁寧に説明し、制作工程のイメージを持たせることが大切だと感じた。初めて取り組む課題に対しての不安を取り除けるような声かけをしていきたい。

<書道>

自分の表現したい内容を、言葉では言うことができて、書で表現することが難しい生徒が多い。基礎的な臨書学習をできるだけ浅く広く実践し、様々な表現方法を用いて、生徒それぞれが納得のいく作品制作ができるように取り組ませたい。

英 語 科

主任：伊藤 佐和子

(1) 今年度の目標

- ① 基礎・基本事項を定着させ、生徒個人に合った指導を行う。
- ② 積極的に英語で自分の考えを表現したり、英文で書いたりする姿勢を養うとともに、他の人の意見を聞き取り、それに対して自分の意見を言ったり質問したりする能力を養う。
- ③ 計画的・自主的学習習慣を養う。

(2) 主な取り組みの計画

- ① ア 授業の予習・復習に確実に取り組ませる。
 - イ 1年生では「英語の構文150」を、2年生では「英単語LEAP」「Smart Reader」を定期試験と学力テストに出題し基礎・基本事項を定着させ、応用問題にも対応した難しい語彙・文法・語法・構文にも取り組ませる。
 - ウ 1年生の論理・表現Ⅰで、20人の少人数クラスで授業を実施し、文法を定着させながらspeakingや writing の力を養う。2年生の論理・表現Ⅱにおいても少人数クラスで授業を実施し、クラスの実情に応じて授業内容も変化させる。
 - エ 3年生は教科書によって基礎・基本事項を定着させ、個別に添削等を行い、大学入試の実践に即した力を身につけられるようにする。
- ② ア 1年生ではALTによるインタビューテスト、Show & Tell、ミニディベートを実施する。
 - イ 2年生ではALTによるエッセイライティング、プレゼンテーションを実施する。
 - ウ 3年生ではALTによる大学入試等の実践に即したエッセイライティングを実施する。
- ③ 自学用の参考書や問題集をもたせて、定期試験、学力テスト、校内模試にむけ計画的に学習に取り組ませる。また、週末課題を実施し、家庭学習の充実を図る。

(3) 成果

- ①「基礎・基本事項の定着」では、1年生で「アースライズ総合英語」「英語の構文150」に取り組ませることで基本文法の定着を図り、自学教材として記述の長文問題集を配布し、読解力が向上した。2年生では1年に引き続き、文法の問題集や「英単語LEAP」に取り組ませ、「Smart Reader」で応用力を身に付けさせ、成果を上げた。

校外学力テスト 1年長文読解得点率 28.8% (7月) →42.3% (11月)

2年長文読解得点率 40.9% (7月) →61.4% (11月)

- ②「積極的に英語で自分の考えを表現したり、英文で書いたりする姿勢を養う」では、1年生で、Show & Tell、ジャーナル(日記)、インタビュー、ミニディベートなど、2年生ではパラグラフライティング、プレゼンテーション、インタビュー、グループディスカッション、3年生でも様々なライティング活動に取り組ませ、定期テストの評価にも加えることで、生徒が積極的に英語を話したり、書いたりする能力が高まった。
- ③「計画的・自主的学習習慣を養う」では、各学年で自学自習用の参考書や問題集に取り組ませ、学習への意欲・態度を図る課題として、定期テストの評価に含めることで成果を上げた。

また、授業評価アンケートでは、生徒はおおむね授業に満足しているという結果が出ている。授業ではこの数年でタブレットを積極的に活用するようになり、生徒のリーディング、ライティング、リスニング力を向上させることができた。

授業評価アンケート結果

「授業の内容について説明が分かりやすいと思うことが多い」

AB評価 第1回 88.7% 第2回 86%

「タブレット、副教材、ワークシートは授業内容の理解や英語力の向上に役立っている」

AB評価 第2回 88.4%

(4) 課題と次年度以降の改善策

①課題

授業評価アンケートの生徒の自己評価に関する設問では、コミュニケーション英語の授業について、「授業前に予習をしている」のAB評価が70.3%であるのに対し、「授業後に復習している」は62.1%であった。

②改善策

授業の予習の指示と同様に、授業後の復習を確認するための活動やテストなどを授業に取り入れ、年間を通して予習→授業→復習のサイクルを意識させる。

家 庭 科

主任：浅井 千賀

(1) 今年度の目標

- ① 人の一生を考えるとという視点から、生活に関する知識と技術を総合的に学習させる。
- ② 興味・関心をもって生活課題を工夫改善する態度を育成する。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 生徒の生活力の伸長を視野に、生活を学ぶことに興味をもてる教材の工夫と改善。
 - ア 中学校での既習事項や他教科との関連を図り、生徒の実態にあわせた教材を選定する。
 - イ デジタルコンテンツ等を活用し効果的で効率のよい教材を取り入れる。
 - ウ 『模擬体験や作業学習』の取り入れによる自ら気づき学ぶ姿勢を育成し、生徒同士の情報交換を促す。
- ② 学習過程を大切にした問題解決学習『ホームプロジェクト』の実践
 - ア 授業で学んだ知識や技術を自らの生活に生かし、応用する力を育てる。

(3) 成果

- ①ア 生徒の現在の生活や、卒業後の生活を見据え、日常に取り入れられること、応用できることをできる教材として取りあげるようにした。特に栄養素の働きや食品の特性については、生物や化学で学習したことと関連付けて、科学的に理解できるようにした。

授業評価アンケートの結果から、毎日の生活の中で最も身近に感じ、関心の高い食生活については、年間を通して取り組むようにした。

イ 口頭での説明だけでは想像しにくい分野については、できるだけ実物を用意し、五感を使って感じ、理解が深まるように工夫した。また、Power Pointでの写真や図を用いた説明や、教材提示装置での師範などを積極的に行った。耳で聞くだけよりも、視覚等から入った情報はより生徒の記憶に残っており、理解も深まっていると感じた。

ウ 今年度は、感染予防対策をとりながらも従来の形に戻して実習を実施した。ただ、コロナ禍で、中学校でほとんど実習をしていない学年であったので、基本的な技術の習得ができておらず、今までの学年に比べて実習に時間がかかった。

- ② 授業で学んだことを机上で終わらせず、家庭生活に取り入れ、自らの生活をつくり、生活改善を図ることが教科の最大の目的である。食生活の分野は、生徒が興味を持ちやすい分野であり、実習後の感想文やアンケートでは、実習内容を家族のために家庭でもう一度実践したという生徒や、卒業後一人暮らしをしたときに生かしたいという生徒も多くみられた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

授業の内容を単に知識の記憶にとどまらせず、納得、理解し、様々な要素を関連付けて考えられるようになること、つまり実生活で応用できる力をいかに育てるかが課題である。定期試験で、理由や根拠を問う問題や、既習の内容と関連付けて答える問題を出題することで、生徒の理解度がよく分かった。次年度以降、生徒自身が考え、創造できる内容を授業や試験問題の中に取り入れたい。

情 報 科

主任：香川 裕之

(1) 今年度の目標

- ① 情報や情報技術を活用するための知識と技能を修得する。
- ② 情報に関する科学的な見方や考え方を養う。
- ③ 社会の中で情報や情報技術が果たしている役割や影響を理解する。
- ④ 情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育む。

(2) 主な取り組みの計画

- ①『情報化の進展が生活や社会に及ぼす影響を認識させる』ことにより、情報社会に参画する態度を育む。
 - ア 情報社会における問題点とその対策について、講演や動画教材などで学ばせる。
 - イ テックレッスン等の副教材を持たせ、授業以外でも主体的に個別に学べる環境を用意し創意工夫をしながら、必要な時に知識や技能を身につけるように指導する。
 - ウ タブレット端末の利用法の指導などを通じて、インターネットに接続する仕組みや、利用時の注意点を学習し、安全で効果的なインターネットの利用方法を学ぶ。
- ②『デジタル・ネットワークについての学習』を通して情報の科学的な理解を図り、情報の安全技術の仕組みを理解させる。
 - ア デジタル情報の特徴や演算の仕組みを学び、コンピュータの特性を学習させる。
 - イ 「ネットワークや情報システムの仕組み」について理解を深めさせ、安全に情報をやり取りするための技術を学習させる。
- ③『コンピュータを用いた実習（問題解決、シミュレーション、プログラミング）』に取り組ませることにより、社会の中で情報や情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報活用の実践力を育成する。
 - ア コンピュータを用いた問題解決を学習する中で、表計算ソフトを利用したデータの分析や、モデル化・シミュレーションを活用できるようにする。
 - イ 問題解決のための手段として、生徒はプログラミングや統計的手法を学び、実践的な問題解決に応用できるように、基本的な考えを指導する。
 - ウ プログラミング学習ソフトであるテックレッスンなどの情報サービスを使って個別最適化された学習環境を利用し、情報サービスを使った問題解決を体験させることで問題解決の意識を育む。
- ④『プログラミング言語 Python によるプログラミング』を学び、プログラミングの技術データ活用に対応できる能力と態度を育む。
 - ア 定期的にプログラミングの課題を体験・提出することで、プログラミング力向上とプログラムコードを読み解く技術を身につけさせ、プログラミングに対する関心と応用力を高める。
 - イ 「Python を活用した AI 技術」を体験することで、プログラミングの設計思想を学び、プログラミングを通して社会の貢献する意識を持ち、コミュニケーションを深めていけるような態度を育成する。

(3) 成果

- ①新課程「情報Ⅰ」の指導も2年目となり、採用した補助教材やiPadも活用しながら、ほとんどの授業でICT機器を積極的に活用する態度を養う実習を行った。
 - 1学期：レポート作成練習、Web ページデザイン学習 (Life is Tech Lesson)
 - 2学期：EXCELによるデータ分析実習、Web上のデータを活用したレポートを提出、コンピュータを用いた実習 (シミュレーション、Python プログラミング)
 - 3学期：プログラミング学習 (探索、並べ替え)、オリジナルプログラム作成 (Python)
- ②「ネットワーク」「組織による安全対策」などの学習を通して、生徒にコンピュータやネットワークの仕組みについて理解する機会を設けた。
 - ア eーとびあ・かがわ (情報交流館) による「情報セキュリティ学習」にあわせてiPad等の利用方法を指導するなど、情報モラル・セキュリティ意識の向上を図った。
 - イ テーマに沿ったレポート (Web デザイン、データサイエンス) を作成することで、様々な情報セキュリティや著作権の考え方などを、実践的な立場からの理解を目指した。
- ③表計算ソフトを用いてのデータの整理・分析やグラフの作成を行い、探究課題の発見や課題発表に役立つ技術を習得させた。
 - ア データサイエンス学習を通して正しくデータ活用して判断する能力を育成し、情報発信の際の注意点などを確認させた。
 - イ 統計局などのオープンデータを活用することで、データの重要性和効果的に見せるための工夫について理解を深めさせた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ①新課程「情報Ⅰ」教科書の内容は理解力を求める問題も多く、授業内だけではすべての知識や技術を習得することは難しいことから、プリントや副教材 (Web 教材) の利用を通して生徒が自主的に課題に挑戦しながら学習効果をあげられる教材を工夫していく。
- ②端末に対する習熟度は中学校ごとにまちまちであり、各生徒のスキルに応じた無理のない授業展開が必要である。また iPad を使った実習にはまだまだ工夫の余地があり、将来的に情報教室に PC を設置しなくなった時のためにも、実習方法を模索していく必要がある。
 - ア 昨年同様、コロナ対策もあつて学年ごとに「情報セキュリティ講座」を実施した。次年度も、担当の先生方とよく相談して密にならずに効果的な講演を企画していく。
 - イ 協働的な学びの場も多く設け、iPad を使ってできる実習も増やしていきながら、将来的には普通教室でもできる授業の構築も目指していく。
- ③新時代の IT スキルの上達を目指して、大学受験や卒業後の生活にも対応できる力を養うため、プログラミング的思考を活用して問題解決を目指したサービスについて研究する。
 - ア 新課程ではデータの収集と活用は重要なテーマとなってきた。回帰分析や検定、モデル化など、問題解決を目指したデータやサービスの活用方法を指導していく。
 - イ 大学入試センター試験にむけて副教材も活用しながら、問題解決、データサイエンス、プログラミング等のすべての分野の内容を生徒各自で定着できるように、生徒自身に考えさせる指導を研究していく。

総合的な探究の時間（ＴＰ・テーマプロジェクト）

主任：市場 公美

（１）今年度の目標

- ① 自ら学び考える態度や探究心を育成する。
- ② 関連する資料を収集・分析する能力を育成する。
- ③ プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を育成する。
- ④ 将来のグローバルリーダーとして必要な知識や態度を育成する。

（２）主な取り組みの計画

- ① ア １、２年次の課題探究では、グループごとに探究題や探究計画を立案し、必要に応じて外部指導者の助言を受けながら探究を進める。
イ ３年次のＴＰでは、現代社会が直面している諸課題を考察する。
- ② ア １、２年次の課題探究では、グループごとの協議で探究を進め、タブレットを有効活用し、必要な資料等を収集・分析を行う。
イ ３年次のＴＰでは、教科横断的な様々な課題について必要な資料等を収集・分析し、レポートにまとめる。
- ③ ア １、２年次の課題探究は、プレゼンテーションや質疑応答を含めた中間報告会や分野別発表会を実施する。
イ ３年次のＴＰでは、授業ごとのまとめとして、発表する機会をつくる。
- ④ ３年間を通して、グローバルリーダーとして必要な知識や態度を育成するための講演会を実施する。
- ⑤ ＴＰ講演会を行い、社会が抱える課題に対する関心と教養を育み、探究活動に生かす。

(3) 成果

- ①ア 1年次では、マイナビの教材を使いながら、生徒と担当教員との話し合いを通して、探究題を立てた。1年生の一部は、J R四国と連携して地域が抱える課題について探究し、その解決に向けて必要な情報を収集し、分析・考察できた。2年次では、1年次のときに決定した探究題を引き続き探究し、昨年度よりも内容を掘り下げて分析・考察できた。新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着いたため、昨年度あまり実施できなかったフィールドワークを行うことができた。
- イ 3年次では、生徒の進路に応じた分野の選択や変更を認めながら、現代社会が直面する諸課題を柔軟に考察した。
- ②ア 1、2年次では、生徒と担当教員との話し合いを通して、探究題や探究計画を立て、必要な資料を分析・考察した。タブレットで発表したり、アンケートをとったりして、タブレットを有効活用していた。
- イ 3年次では、教科横断的な現代の諸課題について、文系の生徒は、主な文化的・史的・歴史的なアプローチで、理系の生徒は、数学的・自然科学的なアプローチで必要な資料を収集・分析し、意見を出し合ったり、探究の成果をレポートにまとめたりした。
- ③ア 1年次では、探究題発表を2月に行った。スライドを使って説明し、生徒同士で良かった点、疑問に思った点を伝え合うことができた。J R四国と連携して活動しているグループは、2月にモニターツアーを行った。2年次では、7月に中間報告会を、2月に成果報告会をそれぞれ開催した。2年次の中間報告会では、作成したスライドを用いてプレゼンテーションを行い、校内の教員による指導助言が行われた。2年次の成果報告会では、中間報告会と同じくプレゼンテーションの形式で、外部指導者をお招きして広く探究成果を公開した。
- イ 3年次では、教科横断的な現代の諸課題について、授業ごとに課題に対する考察や分析を行い、その結果を発表する機会を設けた。
- ④ 多田野奨学会と京都大学との共催による探究講演会を開催し、「それいけ！オオサンショウウオ！」について講演者と共に考えることで、生物多様性を考えることができた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

1年次は、初めてマイナビの教材を使い、補助動画を視聴したが、学校のWi-Fi環境が整っていないため動画を有効に活用できなかった。次年度は、マイナビの担当の方と相談しながら、授業内容の進め方を変えていく。

2年次は、昨年度立てた探究題の探究を引き続き行っていたが、探究活動が行き詰まる班もあった。探究を始めるにあたり、1年次のマイナビの教材を活用して、探究が行き詰まらない探究題を立てていく。

総務部

部長：白川 直美

副部長：松田 進

(1) 今年度の目標

- ① さまざまなPTA活動を通じて学校と家庭との情報交換を密にすることで学校教育と家庭教育の連携を図り、社会的に有為な人材の育成に努める。
- ② 生徒が母校を大切に思う心を育み、これまでの歴史・伝統を尊重するとともに諸先輩の事績を具体的に学び知ることによって、生徒自身が将来の目標を自主的に確立していけるように導く。

(2) 主な取り組みの計画

① PTA活動

- ア 「PTAだより」において、生徒の現況や本校の歴史・逸話を特集するなどして保護者に周知し、発展的な将来展望について啓発する。
- イ 保護者にPTA活動への参加を積極的に呼びかけ、より活性化するよう図る。各委員会・PTA行事が会員の研修および親睦の場となるよう、計画実施する。

② 同窓会活動

- ア 「記念館・同窓会館」を中心として、諸先輩の活躍の歴史を生徒に周知し、歴史・伝統ある本校で学校生活を送る自覚と誇りを育む。
- イ 創立記念講演、井上通女史墓参等を通じて、伝統の重みを実感させるとともに生徒各自の人格の陶冶を促し、将来設計の指針の一助となることを目指す。

(3) 成果

① PTA活動

ア 「PTAだより」83号（7月）と84号（12月）を作成し、学期末の保護者懇談を通じて配布し、学校の現況などを周知することができた。学校評価アンケートでは、学校のホームページや配信メールなども含め、情報発信の点で、89.8%の保護者からよい評価を得た。

イ 各種委員会活動を通じて、会員同士の交流を図り、親睦を深めるとともに、本校への関心を高めることができた。

② 同窓会活動

ア 入学当初のオリエンテーションや斯文祭での公開を通じて記念館の紹介をし、諸先輩の事績に親しむきっかけを提供することができた。

イ 創立百三十周年を迎え、佐藤勝彦先生（昭和39年卒業）による記念講演会、並びに希望者による座談会を実施し、先輩の活躍ぶりに触発された生徒が進路への意識を高める一助となった。また、創立百三十周年記念誌を発刊するとともに、記念館の部分補修を行い、学校の歴史に思いを致す機会を作ることができた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

① PTA活動

ア 会員の交流・親睦をさらに深め、よりよい信頼関係を構築することを目指し、ホームページやメールなどを活用して各行事について周知し、積極的な参加を呼びかける。

イ 委員会活動について、回数や場所など、そのあり方を見直すことによって負担感を減らし、参加しやすくする。

② 同窓会活動

ア 記念誌を作成するにあたって信頼できる資料の必要性を痛感したので、将来に向け、正確な情報を紙またはデータで保存していく。

教 務 部

部長：河田 晃典 副部長：川原 一浩

(1) 今年度の目標

- ① 教育課程の効果的な運用と編成
 - ・生徒の適性や進路目標を踏まえ、あわせて豊かな情操を養うことに留意して教育課程を効果的に運用する。新しい教育課程（令和4・5年度入学生）における学習評価（観点別評価）を適切に行う。
- ② 学習意欲と進路意識の高揚
 - ・授業でのガイダンス、「テーマプロジェクト(総合的な探究の時間)」や進路学習などの行事を通して、生徒の学習意欲と進路意識の高揚につながるようにする。
- ③ 校務支援システムの活用
 - ・校務支援システムについて、有効かつ確実に実行されるようにする。
- ④ 情報機器の充実とその整備
 - ・校内で使用する情報機器を整備、管理する。

(2) 主な取り組みの計画

- ① すべての教科について年度途中に教育課程の実施状況を確認することにより適切な運用を図る。本校生の進路志望に対応するよう、新しい教育課程と学習評価（観点別評価）について、教科と連携して確認する。
- ② 年度初めに生徒に「授業概要一覧表」（シラバス）を配付し、年間の学習計画を立てやすくさせ、各科目の学習進度を確認しやすくさせる。1年生のコース選択説明会が行われる時期に、2年用のシラバスの一部を提示し、コース選択の参考とさせる。また、学校行事とTP、ホームルームなどが連携できるよう研究する。
- ③ 校務支援システムのよりよい活用ができるよう、県教委、委託業者と連携し、現実的な運用に努める。教員業務を支援するという観点から、未使用の機能についてもさらに活用できるように研究する。
- ④ 職員の情報機器活用環境を計画的に整備する。

(3) 成果

- ① 生徒の適性や進路目標を踏まえ、よりよい教育課程に変更することができた。また、新学習指導要領による新しい教育課程を適切に運用するとともに、学習評価（観点別評価）についても適切に行うことができた。
- ② 2・3年生のシラバスについては、今年度からPDFデータで配信したことにより、常に進度や評価の方法等が確認できるようになった。学校行事、TP、HRの取り組みにより進路意識の向上につながった。
- ③ 校務支援システムの不具合については、その都度業者と協議し、改善を行った。また、校務支援システムに関わる役割を分担し、1人の教員にかかる負担を軽減するとともに、効率的にシステムの運用ができるようにした。
- ④ 全学年において一人一台端末を導入することができたことにより、学校生活において様々な場面でICT機器を活用し、効果的、効率的に授業や学校行事等を進めることができた。また、教員も、ホワイトボードやプロジェクター、採点ナビなどのソフトウェアを積極的に活用し、スキルアップを図ることができた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ① 次年度は全学年が新学習指導要領による学習内容になるため、3年間を通した授業進度、評価の状況や評価方法等をしっかりと確認する必要がある。また、共通テストや各大学の入試科目の決定状況によっては、本校生の進路志望に対応できるように新学習指導要領による教育課程の見直しを再度図る。
- ② 今年度に引き続き、2、3年生のシラバスはPDFデータで配付し、一人一台端末を利用して、生徒、教員ともに活用しやすくする。また、学校行事とTP、ホームルーム等が連携し、より効果的な教育が行えるよう研究する。
- ③ 校務支援システムを扱う上での各教員の権限を広げ、システム担当の負担を軽減する。また、未使用の機能について活用できるように研究する。
- ④ 全教室へのホワイトボードとプロジェクターの設置、および全学年へ一人一台端末が導入されて2年目となるので、授業での活用はもちろんのこと、学校行事等、学校全体での効果的な活用方法についてさらに研究する。また、新しいソフトウェアの活用法も含めて、更なる教員のスキルアップを図るため、活用場面の情報共有と研修を行う。

進路指導部

部長：佐野 英二

副部長：久保 博信

【1年】自分の将来について考えさせる

(1) 重点目標

- ① 学習と生活の習慣を確立させる
- ② 自分の進路と適性を考えさせる
- ③ 進路に応じた学習活動を開始させる

(2) 実施内容

- ① 職業や大学の研究と高い志望の設定
… (進路HR、学力テスト、校外模試、英語外部検定、オープンキャンパス、土曜塾)
- ② 自律した生活習慣と家庭学習の確立
・ 予習・授業・復習のサイクルの確立と継続的な学習計画の立案、実行
… (学習状況調査、進路HR)
- ③ 適切な文系理系の進路選択… (進路HR、コース選択説明会)

【2年】将来をより具体的に見つめ、行動を開始させる

(1) 重点目標

- ① 具体的な進路と学習の目標を設定させる
- ② 目標に向けた具体的な学習活動の早期開始

(2) 実施内容

- ① 大学・学部研究… (進路HR、オープンキャンパス)
- ② 目標実現のための学習活動の実践
・ 基礎基本の徹底と中だるみの抑制 … (進路HR、課外、面接)
・ 高い意識を持つ生徒の層への対策
… (難関大合宿、オープンキャンパス、校外模試、英語外部検定、土曜塾、面接)
- ③ 学年後半からの意識改革… (3年0学期、校外模試、進路HR)

【3年】進路目標実現への努力を通して自分を磨かせる

(1) 重点目標

- ① 高い志と粘り強い姿勢を維持して進路目標の実現を図らせる
- ② 学習活動を通して、社会性・人間性を高める。

(2) 実施内容

- ① 高い目標を掲げて着実に努力する姿勢、態度の涵養
・ 第1志望校の堅持… (面接、進路HR)
・ 1年間を見据えた学習計画の作成と実行 適切で主体的な進路選択
… (進路HR、面接)
・ 基礎基本の徹底から応用力の育成へのスムーズな移行
… (課外、校内・校外模試)
- ② 周囲と協力して物事にあたる姿勢や感謝の気持ちの育成 … (進路HR)

(3) 成果

コロナが5類に移行したため、昨年まで実施できていなかった。関東（東大・東工大）キャンパスツアー、京大キャンパスツアー、岡山での難関大合宿などが今年から再開できた。キャンパスツアーには1, 2年生を中心にそれぞれ50名を超える生徒が参加した。やはり、「百聞は一見にしかず」の言葉通り生徒の感想を見てみると、やはりリモートでは得られない強い感動や、今後に繋がる決意など良い効果が見られた。生徒の自発的な行動に繋がっていると思われる。

進学説明会、進路講演会、進路HR等を通して、1年生の文理選択や、学部学科研究をすることができた。志望校をできるだけ早く設定させることに繋がっていると考えている。今年から1年生で河合塾のR-CAP（進路適正検査）を実施したが、文理選択を考える良いツールになっていたのではないかな。

学校評価のアンケートにおいて、コロナ禍の状況と比べるとほとんどの項目で改善が見られる。特に保護者のアンケートの評価が特に良くなった。やはりリモート中心だった頃と比べると、進路情報や、教員との意思疎通ができていた結果だと考える。

(4) 課題と次年度以降の改善策

① 斯文土曜塾

今年度で外部講師を招聘するのは3年目ということで、来年度は外部講師を招聘するのではなく、校内で教員主体の形態で実施する。生徒の細かな状況に合わせた実施になるようにしたい。併せて実施回数や実施時期等も検討して行く。

② キャンパスツアー（関東方面）

本年度は一泊二日で実施したが、次年度は東大のオープンキャンパスの日程に併せて、従来の二泊三日での実施とする。

④ 進路説明会、出願指導検討会、出願指導報告会、学習模試検討会

来年度から新教育課程入試になるのに合わせて、実施時期、実施形態を少し変更する。従来の模試等の結果の検討ではなく、模試等に向けて事前指導の取り組みを検討とする形にする。

⑤ 「情報」

来年度の共通テストに新たに加わる教科「情報」について、すべての教員と情報共有するとともに、補習科生も含めた、3年生の指導を考える。とりあえず、夏の課外で希望者に課外または講座を実施する予定である。

⑥ 難関大合宿

今年4年ぶりに再開した岡山県で実施された県外高校生との難関大合宿であるが、実施時期、参加条件（2年生、5名程度）、実施内容、費用等を検討した結果、来年度以降は中止とする。

生徒指導部

部長：福原 毅

副部長：福家 真一

(1) 今年度の目標

- ① 人格のより良い発達をめざし、自律的な生活態度や好ましい人間関係を育てる。
- ② 規律ある学校生活を送ることにより、社会規範や法秩序を尊重する精神を培う。
- ③ 交通ルールと交通マナーを守り、事故防止、自他の安全の確保を徹底させる。

(2) 主な取り組みの計画

- ① ア 全校集会で講話を行い、自主的・自律的な生活態度を育成する。
イ 登校指導を行い、挨拶がしっかりできるように声掛けをする。
ウ 生徒が安心して学校生活を送れるよう、「学校生活に関するアンケート調査」の実施や面接週間時に担任より悩み事を聞いてもらい、いじめ等の実態を把握する。
- ② ア 全校集会で講話を行い、自主的・自律的な生活態度の育成やマナー指導を行う。
イ 毎月服装検査を行い、服装の整備を図る。違反者に対しては事後指導を行う。
ウ 遅刻生徒に対しては早朝登校指導を行い、基本的生活習慣を身に付けさせる。
エ 週番活動を通して、環境の整備と基本的生活態度を育成する。
オ 講演会（自転車交通安全教室・情報セキュリティ講座・薬物乱用防止教室）を行い、規範意識の向上を図る。
- ③ ア 全校集会で講話を行い、交通ルールの順守や交通マナーの指導を行う。
イ 学期始めの校外立哨指導や毎月の登校指導で、交通マナーの育成、及び事故防止の意識を高める。
ウ 自転車運転免許講習・丸亀警察署による交通安全教室・交通ホームルーム等を行い、交通ルールの順守や交通マナーの育成、及び事故防止の意識を高める。
エ 丸亀警察署と連携し、月1回の朝の街頭指導を行う。
オ 今年度から改正道路交通法により、すべての自転車利用者に対し自転車乗車中のヘルメット着用が努力義務となった。全校集会や文書、PTA総会等で生徒及び保護者にヘルメット着用を推奨する。

(3) 成果

- ①・「学校生活に関するアンケート」や面接を実施後、気になる生徒は関係職員に報告し情報共有することで、早期に対応できている。
- ②・週番活動を通して各クラス学級委員長が呼びかけを行っていることで、前年度に比べ服装違反者が減少した。
 - ・高校生によるSNS上の問題が多発しているが、情報部と連携を図りながら被害者、加害者にならないよう安全な利用や情報モラルの向上についての注意を呼びかけたことで、本校では大きな問題は発生していない。
- ③・外部講師による具体的な講演や自転車運転免許講習、交通ホームルームを行ったことで、交通法規や事故後の対応について確認できた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ①・自発的に挨拶ができたり、常に相手を尊重した言動が取れる生徒がもっとも増えて欲しい。担任だけでなく授業担当者や部活動顧問も含めて全職員で挨拶はお互いコミュニケーションを図るうえで大切なものであることを指導する。
- ②・服装検査において違反者は減少したが、着こなし（校内では名札は表、女子ブレザーは前ボタンをする）は十分とはいえない。週番によるクラスへの呼びかけや教員が見たらその場で注意するなど指導徹底をはかる。
- ③・依然として登下校中の自転車事故が多かった。自転車通学者だけでなく徒歩通学者も含め並列で登校している生徒、徒歩通学者のなかで参考書を読みながら、音楽を聴きながら登校している生徒もいて注意を行った。マナー面も含め周りの迷惑や事故につながる事への呼びかけを適宜行い、毎月実施している登校指導及び丸亀警察署との合同交通指導も引き続き行う。

教育相談部

部長：三原 洋子 副部長：荻田 千佳子

(1) 今年度の重点目標

- ① 生徒実態の把握
- ② 関係職員、保護者、専門機関との連携
- ③ 研修活動の充実

(2) 主な取り組みの計画

① 生徒の実態を把握する

- ア 心理検査 **i-check** を1年生対象に実施する。実施時期を、例年の9月から5月に変更し、生徒の状況を早く分析・把握できるようにする。
- イ 保健室利用状況から、心に問題を抱える生徒を把握する。
- ウ 担任や授業担当者との情報共有、生徒連絡会、学校生活アンケート、入学前アンケートから問題を抱える生徒を把握する。学年団会での情報を教育相談部内で共有し、早期対応ができるようにする。

② 関係職員、保護者、専門機関と連携をとる

- ア SC から可能な範囲でカウンセリング内容を聞き取り、担任に知らせる。
- イ 特別支援教育委員会との協働を図るとともに、個々のケース会を実施し、関係職員全員の共通理解を図る。必要があれば、個別の指導計画を担当と共に作成する。
- ウ 保護者と密に連絡を取り合う。
- エ SC やSSW、専門機関との連携を図り、適切な支援を行う。

③ 研修会を設ける

- ア 生徒に対するメンタル研修を保健部と協働して実施する。(3年生対象：10/5 予定)
- イ 職員への現職教育を実施する。(10/12 予定)

(3) 成果

①生徒の実態を把握する

ア 1年生を対象とする心理検査*i-check*の実施時期を、従来の9月初旬から5月下旬に変更し、高校生活への順応状況や人間関係等を把握するために活用することができた。

イ 保健室で不調を訴える生徒の話から、生徒が抱える問題を把握することができた。

ウ 入学前アンケートや学校生活アンケートの結果の共有、また教員間での情報共有を通して生徒の状況を把握できたことが、迅速な支援に繋がった。

②関係職員、保護者、専門機関と連携をとる

ア スクールカウンセラー（以下 SC）から、本人の許可を得ているカウンセリング内容を聞き取り、それを関係職員間で共有することで支援の一助とすることができた。

イ 特別支援教育委員会との協働を図るとともに、個々のケースについて、関係職員が生徒の情報を共有し、支援方法を検討する過程を通して、継続的に生徒の支援を行った。

ウ 状況に応じて、担任や SC、あるいは教育相談部員が保護者と連絡を取り合うことで、生徒や家庭の状況等を把握し、関係機関との連携にもつなげることができた。

エ SC やスクールソーシャルワーカー(以下 SSW)、そして医療機関や行政機関との連携を密にすることで、個々の状況に応じた支援体制を構築することができた。

③研修会を設ける

ア 入学直後の1年生を対象にオリエンテーションを行い、生徒間の交流を深める機会となった。SC に関する情報提供も行い、気軽に相談できる雰囲気づくりができた。

イ 精神科医を講師とした職員への現職教育を実施し(10/13)、心身の不調を訴える生徒への対応等について学ぶことができた。

〈その他〉

教員対象の学校評価アンケートにおいて「教員相互の情報交換によって、援助を必要とする生徒の実態が把握されている」「関係職員や保護者との連携により、状況に応じた支援ができています」「職員への現職教育や、個別のケース会議等により、教育相談的な理解を深めている」の3項目について、「ほとんどあてはまる」「あてはまるところがある」と答えた割合がそれぞれ 100%、96.8%、100%であった。

(4) 課題と次年度以降の改善策

今年度の SC への相談件数は1月末時点で76件（昨年度同時期51件）で、支援が必要なケースが年々増えているが、SCの勤務時間が昨年度より増えたことや、SSWが本校定時制を拠点として勤務していることもあり、適切な支援体制を早期に構築できた。今後も、早期の問題発見・対応のため、教員間での情報共有がスムーズに行われる体制を整備していく。

特別活動部

部長：大西 亜紀

副部長：安藤 優太

(1) 今年度の目標

- ① 生徒会の自主的、自律的な企画・運営
- ② ホームルーム委員会、自由テーマのホームルームの活性化
- ③ ボランティア活動の活性化
- ④ 部活動を通して、規則を守り礼儀正しく、お互い協力し助け合う豊かな人間の形成

(2) 主な取り組みの計画

- ① 生徒会の自主的自律的な企画・運営のために
 - ア 教員・一般生徒との連絡を密にとる。
 - イ 生徒会室の整備とデータ・資料の整理をする。
- ② 自由テーマのホームルームの活性化に向けて
 - ア 事前指導を充実させる。
 - イ ホームルーム委員の運営力育成に向けて担任との連携を強化する。
- ③ ボランティア活動の活性化に向けて
 - ア 丸亀支援学校交流会事前研修・準備・周知活動を充実させる。
 - イ 地域のボランティア活動（募金等）に積極的な参加をめざす。
- ④ 規則を守り礼儀正しく、お互い協力し助け合う豊かな人間の形成に向けて
 - ア 校則や集団の決まりを守らせ、所属感や連帯感を身につけさせる。
 - イ 挨拶や美化活動等を、自主的、自発的に行う態度や習慣を身につけさせる。

(3) 成果

① 生徒会の自主的自律的な企画・運営のために

ア すべての行事において、実施方法について見直しを図りながら、感染症拡大前の行事の規模に戻すことができた。学校評価アンケートでも教員、3年生、保護者共に「ほとんどあてはまる」の回答が昨年度の数値を大幅に上昇した。

イ 各年のデータを整理し、それをもとに多くの行事等を実施することができた。

② 自由テーマのホームルーム活動の活性化に向けて

ア ホームルーム委員が中心となり、責任を持って運営するよう事前指導を行った。

イ 年間計画や実施記録簿を作成させた。担任と連携しながら、ふり返ったことを次のホームルーム活動の運営に活かした。内容や記録に関して係の教員が助言指導を行った。

③ ボランティア活動の活性化

ア 参加生徒については事前研修・準備・当日の活動を通して、ともに生きる社会作りを目指すきっかけとなった。また、ふれあいだよりにより、他の生徒に対しても活動内容を周知することができた。

イ 各種募金活動はふれあい委員が中心となり、クラスに周知・取りまとめを行った。特に能登半島地震募金は複数の高校が共同で行った。丸亀支援学校交流会などのふれあい委員の活動は斯文祭(ふれあいの部屋)の展示として、地域に向けた効果的なPRができた。

④ 部活動を通して、規則を守り礼儀正しく、助け合う豊かな人間

ア 部長会を実施し部長を中心に部活動のルール徹底や活性化に取り組むよう指導した。部によって、まとまりに欠けたり、ルールを遵守できていない場合も何度か見られた。

イ 気持ちの良い挨拶ができていない部活動は多くなっている。部室等の美化活動について疎かになっている部活動が多かった。

(4) 課題と次年度に向けての改善策

①ア 生徒会役員と教員、一般生徒の間で連絡を十分取りながら、行事の企画・実施をしたい。

イ 年度ごとのデータを次年度に生かせるよう、引き続きデータの整理をしていきたい。

②ア 自由ホームルームを通して、望ましい人間関係を形成し、学校やホームルームでの生活によりよく適応できるようにしたい。自由ホームルームのテーマ設定やホームルーム活動の充実に向けてホームルーム手帳の活用を促したい。

イ 記録簿の訂正箇所が多く、記入方法や記録簿の点検を生徒自身に促すような取り組みが十分ではなかった。記録簿の点検を生徒自身がまず行えるよう指導体制を整えたい。

③ 生徒のアンケートによるとボランティア精神の啓発についての評価が①35.4%と低い。生徒にボランティア活動の募集及び報告について、生徒の心に伝わるよう掲示・配布等を工夫して行う。

④ 部長、理事を集団のリーダーとして成長を目指すことに重点をおき、顧問と連携しながら取り組みたい。各部の大会、発表会や校内行事の機会をとらえ、部員の一人として自発的に美化活動や挨拶ができるように指導する。

人権・同和教育部

部長：市村 拓二

副部長：藤原 誠司

(1) 今年度の目標

- ① 生徒一人ひとりが主体的に人権課題について考えることができるホームルームを構築する。
- ② 各教科・科目、校務分掌でのすべての領域に人権教育の視点を導入する。
- ③ 現職教育をさらに進める。
- ④ 機会をとらえ人権意識の重要性について全体に働きかけていく。
- ⑤ PTA活動を通じて、保護者への啓発活動をさらに進める。
- ⑥ 地域との連携を深め、差別の現実から学ぶ。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 参加体験型の人権・同和教育ホームルームの回数の漸進的増加と差別解消に向けての実践力の育成
 - ア 3年生を対象に同和問題学習会を行い、学習会で学んだ生徒が主体となって教員の指導のもとでホームルームを構築する。
 - イ 各学年団のホームルームのなかで参加体験型の人権・同和教育の比重を増やすとともに、ICT機器を積極的に活用する。
 - ウ 参加体験型ホームルームの構築に向けて、校内研修を行うとともに、各種研修会へ人権・同和教育部教員が積極的に参加する。
- ② すべての教育活動における人権教育的視点の導入と研修機会の提供
 - ・職員会議にタイムリーな話題を提供したり、昨今の人権・同和教育の動向を紹介したりして、研修回数を増やす。
- ③ 全校集会などの機会を捉えて全体に人権尊重の重要性を訴えていく。
- ④ 保護者啓発の推進
 - ・1年生2学期LHR（講演）「障がい者問題」や人権講演会への参加を促し、全保護者への啓発を推進する。PTA役員を中心に市や県の研修に参加を依頼する。学期に一回、保護者向けに人権・同和教育だよりを発行し、人権教育への理解を促すとともに啓発に努める。
- ⑤ 地域との連携
 - ア 教員に現地研修会や夏祭り、文化祭への参加を呼びかける。
 - イ 同和問題学習会のなかで、同和地区において差別解消に向けて努力している人と生徒との意見交換を行う。またそれをホームルームで共有する。

(3) 成果

- ①ア 人権・同和教育ホームルームについては、計画通り、3年ホームルーム委員による同和問題学習会と、それに基づいて生徒主体で行う9月のホームルームを実施することができた。
- イ 数多くのホームルームで参加体験型の型式を取り入れることができた。また一人一台端末や、各教室の視聴覚機器を活用したことで、生徒どうしが意見を共有することも可能となり、多様な価値観や考え方を理解しあう機会を増やすことができた。
- ウ 参加体験型ホームルームの構築に向けて、人権・同和教育部会や学年団会を通じて、校内研修を実施することができた。
- ② 年度の早い時期に現職教育を実施し、現在の人権・同和教育の動向について研修を行うことができた。また職員会議でも研修報告などを行う機会を設けることができた。
- ③ 4年ぶりに全校生対象の人権講演会を実施することができ、互いの人権を大切にするためのコミュニケーションについて学ぶことができた。
- ④ 人権講演会には、少数ではあるが保護者が参加した。PTA総会での講話は実施した。PTA研修委員・育成委員が中心となって、予定していた香川県や丸亀市が主催するすべての研修会に参加できた。保護者版「人権だより」は、今年も配信形式で実施したことで、のべ50人近くの保護者の意見を集めることができた。保護者の意見のなかには、人権・同和教育についての貴重な指摘やアドバイスもあり、また人権教育の大切さを再認識することにもつながっている。
- ⑤ア 現地研修会は4年ぶりに実施できた。また夏祭りや文化祭へも昨年以上に参加できた。
- イ 今年度は金山文化センターから講師を招き、昨年に続き、同和地区において差別解消に向けて努力している人と生徒との意見交換を行うことができた。また「差別の現実学ぶ」意義を参加した生徒たちはしっかりと認識することができた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

ホームルーム計画について、この数年間大きな変更はなされなかったが、生徒の主体的な活動で一部の生徒に負担が集中している、さまざまな人権課題を取り上げる機会が少ないなどの問題点が明らかになった。それらの点を踏まえ、2学期後半より人権・同和教育部会でホームルームの見直しをおこなっている。次年度は新しい計画でホームルームを進め、課題解決をはかっていく。

また人権・同和教育に関わる様々な活動の中で、ICT環境を活用する機会を増やすことはできているが、年計画で定められている限られた時間の中で、生徒が「正しい知識」を身につけ、さらに「自分ごと」として人権課題をとらえられるようになるために、校内外の研修に積極的に参加して学習支援アプリの効果的な活用方法を研究していく。

保健部

部長：佐柳 清子 副部長：柳谷 貴子

(1) 今年度の目標

- 1 生徒、職員の心身の健康の保持増進
- 2 防災対策と地震発生時の安全行動の確認
- 3 積極的な清掃活動による環境美化と生活環境の整備
- 4 校内の設備・備品の把握と故障、破損した備品の修理、交換

(2) 主な取り組みの計画

1① 健康診断

- ア 事前に「健診の意義」や見つかる病気等について周知し、健康に関して関心を持たせるとともに、自分の健康状態について把握できるようにする。
- イ 健康診断の結果、異常がある場合は、早めに医療機関に行くように生徒に指導するとともに、懇談などの機会を利用して保護者にも連絡する。

② 健康管理

- ア 心肺蘇生法の講習会（実施日：6/12 1年生・教職員対象）を行う。
- イ 保健室来室時に「利用カード」を記入させ、体調を崩した原因や生活習慣について考えさせる。
- ウ 保健室前の掲示板や黒板に、様々な健康に関する資料を掲示することにより、生徒が健康に関して興味や関心を持つようにさせる。

③ 生徒保健委員会

- ア 「保健だより」を作成して、SHRなどでその時々々の健康に関する説明を行う。

④ 心の健康

- ア 保健室利用状況を担任や学年主任等に知らせることにより、心の問題を抱える生徒を早期に発見し、関係職員やスクールカウンセラーおよび保護者と連携し、支援する。
- イ 3年生対象にスクールカウンセラーによるメンタルヘルスの講演会を行う。

⑤ 性教育

- ア 2年生はHRで外部講師による命の大切さについての講演会を行う。

⑥ 環境の整備

- ア 水質検査、教室の照度や空気検査など「環境検査」の結果を知らせて環境に関心を持たせる。
- イ 冷暖房時の温度設定や換気など「適切な管理」ができるようにする。

⑦ 学校衛生委員会

- ア 衛生委員会を年間10回開催し、職員の健康増進を図り、職場環境を整備する。

2 防火・防災

- ア 学校防災計画を策定し、避難訓練や1年生を対象に防災訓練を実施する。

3 清掃活動

- ア 日々の清掃や学校行事前等の大掃除を充実させ、校内くまなく美化が図られるようにする。
- イ 清掃用具の修理、補充を適切に行い、十分に清掃活動が行えるようにする。
- ウ 安全点検や部室点検を学期に1回実施し、危険箇所を早期に把握し、修繕する。

4 施設管理

- ア 各教室の机・椅子の数を把握・修理を行い、老朽化したものは計画的に交換する。

(3) 成果

① 生徒、職員の心身の健康の保持増進

- ①ア アンケート調査では、生徒の83.5%、保護者の83.8%、教員の96.7%、が「生徒の健康管理に関する指導・支援を適切に行っている」と回答。献血推進活動を2回行った。400ml献血で7月は29名(受付34名) 12月は35名(受付32名)の献血を受けることができた。
- イ 健康診断では、昨年に引き続き受診者の流れをさらに改善したことで、検診時間を短縮できた。
- ②ウ 地域学校保健委員会では、中讃保健福祉事務所より講師をお招きした。学校後の食事の摂り方に関する内容だったので保護者の関心も高く、活発な意見交換ができた。
- ③ア 様々な学校行事において、保健委員がクラスメートの健康管理や感染防止対策に貢献できた。
- ④ア 保健室利用の生徒に対しては、学級担任や教育相談部、保護者と連携を取って支援できた。
- ⑤ア 11/2に2年生対象で昨年と同じ講師を依頼して性教育講演を実施した。講演後には希望生徒対象に、個別に健康相談と進路相談を実施した。
- ⑥イ 教室設置の二酸化炭素濃度測定器によって生徒の意識も高まり、適切な換気ができた。
- ⑦ア 毎月の校内巡視の結果を元に、施設設備面に関して（フロアやタイルの張り替え等）すみやかに改善することができた。

② 防災対策と地震発生時の安全行動の確認

- ⑧ア 9/1に全校での防災訓練、9/29に1年生対象の防災訓練を実施。防災意識を高めることができた。

③ 積極的な清掃活動による環境美化と生活環境の整備

- ⑨ア アンケート調査では、生徒の90.0%、教員の90.4%が「生活環境は整えられている」と回答した。

④ 校内の設備・備品の把握と故障、破損した備品の修理、交換

- ⑩ア 定期的に机・椅子の数や破損の有無の把握ができた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・大掃除の回数が少ないため、普段じっくりと行えない水回りの清掃が不十分な箇所がある。来年度の年間行事予定で大掃除を増やすことを要望した。
- ・校内巡視で危険個所の指摘があっても、予算の関係で全てがすぐには対応できるわけではない。こまめに注意喚起を行って、トラブルが発生しないようにする。
- ・新型コロナウイルスを含め、感染症対策は今後も継続しなければならない。全教職員で情報を共有して各分掌で連携を取りながら、臨機応変な対応を心がけたい。
- ・講師の都合により3年生対象のメンタルヘルス講演が中止となったので、年度始めに講師を確保し、必ず実施できるようにする。
- ・1学期に保健行事が多く、授業時間確保との兼ね合いが難しい。保健行事の精選を図り、可能なものは実施時期をずらすなどの改善を行いたい。
- ・新しい試みとして、検診や保健行事の後などに健康相談（進路相談を含む）始めたのが好評であった。ただ、まだ生徒・職員に十分に浸透していないので、積極的に周知を行って、より有意義な取り組みにしていきたい。

教育研究部

部長：荒井 裕子

副部長：市場 公美

(1) 今年度の目標

- ① 教科・課題探求や学校行事でより教育効果が得られるように、読書週間などを活用して、図書館利用の促進を図る。
- ② 次世代のグローバルリーダーとして必要なスキル(情報収集力・発信力・語学力・コミュニケーション能力など)の育成のためのプログラムを実施し、あわせて各教科の科学オリンピック等への参加を促す方法を検討する。
- ③ 生徒にとってタブレットが「学びを深めるもの」になるよう、タブレット等のICT教材を活用した授業研究を行い、教員全体の授業デザイン力の向上を図る。
- ④ 学校評価活動の改善について、実施内容や方法、学校評価書を本年度の実態に合わせ、教員の業務改善に、より大きな効果が得られるよう工夫する。

(2) 主な取り組みの計画

- ① ア 「図書館だより(図書館通信)」「図書委員活動」「サテライト図書室」等を利用し、読書活動の推進を図る。
イ 図書管理システムを運用する。
- ② ア 総合的な探究の時間を利用して以下の活動を実施する。
 - a 課題探究(情報収集力・コミュニケーション能力等の育成)
 - b TP講演会(社会が抱える課題に対する関心と教養を育み、探究活動に生かす)イ 生徒の各教科科学オリンピック等への参加を促すため、生徒一人一人への周知を行い、また各教科を支援し、それらの結果をとりまとめる。
- ③ ア 研究授業を原則として各教科年1回実施し、教員全体の授業デザイン力の向上を図る。また、授業参観週間での相互の授業参観の推進を図る。
イ タブレット等のICTを活用した授業研究を行い、研究授業等に取り入れる提案や研修を行う。
ウ キャリア・パスポートの作成等、タブレット等を効果的に活用できる方法を検討し、実施する。
- ④ ア 学校評価のための基礎資料収集を、項目などを精選して次のとおり行う。
 - a 生徒による授業評価
 - b 教員による自己評価
 - c 卒業間近の生徒による学校評価
 - d 卒業間近の生徒の保護者による学校評価イ 公開授業(4月、11月)のアンケート集計と分析を適切に行う。

(3) 成果

- ① ア 読書週間、図書委員活動（電子版図書だより、サテライト図書室）により、図書推進を図ることができた。「読書感想文コンクール」では、県の審査で優良賞を受賞している。「読書体験記コンクール」では、県の審査で入選した。
- 職員の学校評価アンケートで「（本校の図書活動は）読書活動を推進している」は96.7%と高く、3年生に対する学校評価アンケートで「（本校の図書活動は）読書のために有効である」は78.3%であった。
- イ 電子貸出システムが年間を通じ運用中である。
- ② ア 教科「TP」を参照
- イ 「科学の甲子園」香川県予選に参加したが、優勝は逃した。
- ③ ア 生徒による授業評価について、3年生に対する学校評価アンケートで「生徒からの授業評価が授業改善に活かされている」は70.1%（昨年比-2.3pt）と、生徒の声を授業改善に活かしていると感じている生徒が多い。職員も「生徒からの授業評価は、授業改善が図られている」が93.6%であり、授業評価を授業改善に役立てようとしていることが分かる。
- イ 公開授業は、1学期4月のPTA総会の時と、2学期11月の1年生のコース説明会に合わせて実施した。
- ④ ア ICTやタブレットの活用を視野に入れた授業を研究し、研究授業を実施、教科での研究を行った。教員の「本校で実施した研究授業・授業参観等は本校職員の授業力向上に役立った」は87.1%で、昨年に比べて+9.6ptと、他の教員の授業を参考にしてICT活用を図りたい意識の表れではないかと思われる。
- イ タブレットやプロジェクター等の情報機器や視聴覚機器の活用について、3年生に対するアンケートで「情報機器や視聴覚機器は理解を深めるために有効だった」は89.5%（昨年比+7.4pt）、職員の「情報機器や視聴覚機器は充実させている」が100%（昨年比+5.0pt）と、普段の授業でICT活用することが特別なものではなくなっている。

（4）課題と次年度以降の改善策

- ① アンケートでは生徒と職員と解答に乖離が見られ、読書を書籍で行うか電子書籍で行うかの認識の違いもあるのかもしれない。図書室の利用については、理想的な利用をしているので、今後も引き続き読書活動の推進をしていく。
- ② 「科学の甲子園」香川県予選に参加した以外は、他の科学オリンピック等の参加はほとんどなかった。コロナの影響が残り、生徒各自でオンライン参加となっているものもあり、学校が把握するのが難しくなっている。次年度以降、生徒の自主性、積極性を重んじながら、開催の案内をし、参加生徒へはポートフォリオへの入力を促す。
- ③ 授業評価について、アンケートの生徒と職員の解答に乖離が見られる。今年度からほぼすべての教科でClassi集計されるようになったが、生徒がどのような授業改善を望んでいるのか、アンケートの問いかけを工夫したい。また、職員の授業改善に向けてアンケート結果は活用されているという評価が多いので、今後とも続けていきたい。
- ④ 授業に活用するためのタブレットやプロジェクターなどの情報機器、視聴覚機器が充実している。今年度すべての教室にプロジェクターが整備され、授業の展開の幅も広がりを見せている。次年度以降、タブレット等を活用した授業研究を進めたり、使用に関する教員の研修の場を設けたりしていきたい。

学校評価アンケート結果の比較（3年間）

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない

総務 A 1	教員	P T A総会やP T Aだより、学校ホームページの更新や学校配信メール等を通して、学校の実態を保護者に発信し、その理解・協力を得られている。
	3年生	
	保護者	丸亀高校では、P T A総会やP T Aだより、学校ホームページの改訂や学校配信メール等を通して、学校の情報を知ることができた。
総務 A 2	教員	丸亀高校には、学習環境を整えるためにふさわしい施設・設備・備品があり、大切に使われている。
	3年生	丸亀高校校内の施設・設備・備品は、大切に使われていた。
	保護者	丸亀高校には、学習環境を整えるためにふさわしい施設・設備・備品が整備されていた。
教務 B 1	教員	校務支援システムは、本校の実情に応じて改訂・調整され、校務実施の助けとなっている。
	3年生	
	保護者	
教務 B 2	教員	生徒の適性や進路目標を踏まえ、豊かな情操を養うことに留意して、教育課程を編成し、適切に運用できている。
	3年生	丸亀高校では、生徒の適性や進路目標を踏まえ、かつ豊かな情操を養うことに留意した教育課程が編成されていた。
	保護者	丸亀高校における授業のカリキュラムは、生徒の適性や進路目標、そして情操に配慮した教育課程(授業のカリキュラム)を編成し、適切に運用されていた。
教務 B 3	教員	授業やホームルームにおける教師の指導や、「T P (総合的な探究の時間)」等での外部講師による講演会は、生徒の学習意欲と進路意識の高揚につながっている。
	3年生	
	保護者	
教務 B 4	教員	丸亀高校では、学校案内の発行等により、中高連携を図っている。
	3年生	
	保護者	
教務 B 5	教員	丸亀高校のシラバスは、生徒が1年間の学習計画を理解するために、役立っている。
	3年生	丸亀高校では、年度当初に配られたシラバスを見ることで、年間の授業計画の概要を理解することができた。
	保護者	
教務 B 6	教員	一人一台端末の導入を含めた授業等におけるI C T機器の活用は、授業改善及び生徒の学びの改善につながっている。
	3年生	
	保護者	
進路 指導 C 1	教員	進路ホームルーム・コース選択説明会・キャンパスツアー等は、生徒が自らの志望と適性を見つめつつ、自らの進路目標を具体化させることに、有益である。
	3年生	丸亀高校における、進路ホームルーム・コース選択説明会・キャンパスツアー等の行事は、自らの進路について考えるよい機会となった。
	保護者	丸亀高校における、進路説明会・コース選択説明会等の行事は、進路について考えるよい機会となった。
進路 指導 C 2	教員	学習状況調査・進路ホームルーム・課外・面接等は、生徒の自律的な学習習慣の確立への力となっている。
	3年生	丸亀高校では、学習状況調査や進路ホームルーム、面接など、生徒が継続的な学習が行えるよう、適切な学習指導が行われていた。
	保護者	丸亀高校では、生徒に学習習慣が確立するよう、適切な学習指導が行われていた。
進路 指導 C 3	教員	丸亀高校では、生徒が自分の将来を考え、その実現のために努力ができるような指導が行われている。
	3年生	丸亀高校では、生徒が自分の将来を考え、その実現のための努力ができるような指導が、行われていた。
	保護者	丸亀高校では、生徒が自分の将来を考え、その実現のために努力ができるような指導が行われていた。
進路 指導 C 4	教員	丸亀高校での3年間の指導は、生徒を学力的・社会的・人間的に成長させるのに効果的である。
	3年生	
	保護者	生徒は、この3年間に様々な経験を経て、学力的・社会的・人間的に成長できた。

R5年度					R4年度					R3年度				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
80.6%	19.4%	0.0%	0.0%	0.0%	65.0%	30.0%	0.0%	2.5%	2.5%	63.0%	37.0%	0.0%	0.0%	0.0%
55.7%	34.1%	8.1%	1.1%	1.1%	39.4%	43.3%	13.9%	1.4%	1.9%	42.6%	47.9%	6.3%	0.5%	2.6%
64.5%	32.3%	3.2%	0.0%	0.0%	42.5%	47.5%	0.0%	2.5%	7.5%	43.5%	45.7%	8.7%	2.2%	0.0%
72.0%	19.0%	3.0%	0.0%	1.9%	66.1%	24.7%	4.4%	0.0%	4.8%	79.4%	18.3%	1.9%	0.0%	0.4%
51.9%	37.3%	4.3%	2.7%	3.8%	42.8%	38.0%	9.1%	1.0%	9.1%	54.5%	33.3%	6.3%	1.1%	4.8%
45.2%	45.2%	6.5%	0.0%	3.2%	32.5%	52.5%	5.0%	7.5%	2.5%	45.7%	41.3%	8.7%	2.2%	2.2%
51.6%	41.9%	0.0%	0.0%	6.5%	45.0%	47.5%	5.0%	2.5%	0.0%	47.8%	45.7%	6.5%	0.0%	0.0%
54.9%	33.6%	5.6%	1.1%	2.2%	55.6%	32.9%	6.0%	0.8%	4.8%	70.7%	25.1%	2.7%	0.4%	1.2%
44.9%	40.5%	6.5%	3.2%	4.9%	37.0%	41.3%	8.7%	1.4%	11.5%	41.1%	46.3%	5.3%	0.5%	6.8%
41.9%	51.6%	0.0%	3.2%	3.2%	40.0%	42.5%	10.0%	2.5%	5.0%	47.8%	43.5%	4.3%	2.2%	2.2%
48.4%	38.7%	0.0%	0.0%	12.9%	37.5%	45.0%	5.0%	5.0%	7.5%	39.1%	47.8%	6.5%	0.0%	6.5%
29.0%	51.6%	12.9%	3.2%	3.2%	30.0%	45.0%	17.5%	5.0%	2.5%	30.4%	52.2%	15.2%	2.2%	0.0%
60.8%	27.6%	7.1%	1.5%	1.1%	62.1%	27.3%	7.9%	0.4%	2.4%	71.8%	20.6%	5.7%	1.5%	0.4%
54.8%	45.2%	0.0%	0.0%	0.0%	45.0%	37.5%	7.5%	2.5%	7.5%	43.5%	45.7%	6.5%	0.0%	4.3%
58.1%	41.9%	0.0%	0.0%	0.0%	42.5%	37.5%	5.0%	2.5%	12.5%	45.7%	43.5%	4.3%	0.0%	6.5%
58.2%	28.4%	7.8%	1.1%	3.0%	53.0%	28.1%	10.4%	1.6%	6.8%	66.2%	25.9%	5.3%	1.1%	1.5%
64.3%	25.9%	6.5%	1.1%	2.2%	43.8%	37.5%	12.5%	1.9%	4.3%	51.6%	39.5%	5.3%	1.6%	2.1%
51.6%	45.2%	0.0%	0.0%	3.2%	42.5%	47.5%	2.5%	5.0%	2.5%	47.8%	43.5%	6.5%	0.0%	2.2%
65.7%	24.6%	5.2%	0.4%	1.9%	55.6%	33.6%	8.0%	0.0%	2.8%	73.8%	20.5%	4.9%	0.4%	0.4%
52.4%	35.1%	6.5%	1.1%	4.9%	39.9%	41.8%	9.6%	1.4%	7.2%	50.5%	39.5%	4.7%	0.5%	4.7%
51.6%	45.2%	0.0%	0.0%	3.2%	52.5%	40.0%	0.0%	2.5%	2.5%	51.1%	46.7%	0.0%	0.0%	2.2%
63.8%	27.2%	4.5%	1.1%	2.2%	50.0%	37.6%	8.0%	0.8%	3.6%	68.3%	24.4%	4.2%	0.8%	2.3%
56.2%	31.9%	5.4%	1.6%	4.9%	48.6%	38.5%	5.8%	1.0%	6.3%	57.9%	35.3%	2.6%	0.5%	3.7%
45.2%	51.6%	0.0%	0.0%	3.2%	40.0%	52.5%	0.0%	2.5%	5.0%	39.1%	47.8%	0.0%	0.0%	13.0%
69.7%	25.9%	1.1%	1.6%	1.6%	57.2%	37.5%	3.4%	0.0%	1.9%	66.3%	29.5%	2.6%	0.5%	1.1%

学校評価アンケート結果の比較（3年間）

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない

教育研究 D 1	教員	丸亀高校では、図書館便り・読書感想文・学級文庫・読書の時間・サテライト図書室等を利用して、読書活動を推進している。
	3年生	丸亀高校の図書館便り・読書感想文・学級文庫・読書の時間・サテライト図書室などは、読書のために有効であった。
	保護者	
教育研究 D 2	教員	丸亀高校では、授業での活用を図るため、情報機器、視聴覚機器を充実させている。
	3年生	丸亀高校の授業・行事で活用された、プロジェクターやタブレット等の情報機器や視聴覚機器は、理解を深めるために有効だった。
	保護者	
教育研究 D 3	教員	丸亀高校では、生徒からの授業評価や、公開授業等を実施し、授業改善が図られている。
	3年生	丸亀高校で行われた、生徒からの授業評価は、授業に活かされていた。
	保護者	
教育研究 D 4	教員	丸亀高校では、英検等の検定による生徒の資格取得や科学の甲子園等への参加を促す活動を行っている。
	3年生	
	保護者	
教育研究 D 5	教員	丸亀高校で実施された研究授業・授業参観などは、本校職員の授業力向上に役だっている。
	3年生	
	保護者	
生徒指導 E 1	教員	丸亀高校では、生徒が自発的なあいさつを行ったり、相手を尊重した言動をとることができるようになるための指導が行われている。
	3年生	丸亀高校では、自発的なあいさつや、相手を尊重した言動をとることをうながす指導や雰囲気作りが行われていた。
	保護者	丸亀高校では、生徒が自発的なあいさつを行ったり、相手を尊重した言動をとれるようになるための助けとなるような雰囲気作りや指導が行われていた。
生徒指導 E 2	教員	丸亀高校では、早朝登校指導や校外交通立哨、服装検査、外部講師を招聘しての講演会等を実施し、生徒の規範意識の維持・向上に努めている。
	3年生	丸亀高校では、服装の整備や時間厳守（遅刻）、私物の整理整頓等、学校生活に集中することをうながす指導や雰囲気作りが行われていた。
	保護者	丸亀高校では、早朝登校指導や校外交通立哨、服装検査等、生徒に基本的な生活習慣が身につくような指導が行われていた。
生徒指導 E 3	教員	丸亀高校では、交通指導、自転車運転免許講習、自転車交通安全教室等の交通ホームルームを行い、生徒の交通マナーの向上や事故防止への意識付けが図られている。
	3年生	丸亀高校における、交通指導や自転車運転免許講習、自転車交通安全教室等の交通ホームルームは、生徒の事故防止への意識付けや、交通マナーの向上に有効だった。
	保護者	丸亀高校における、交通指導、自転車運転免許講習や自転車交通安全教室等の交通ホームルームは、生徒が交通事故防止を意識したり、交通マナーを向上させるために有効だった。
特別活動 F 1	教員	丸亀高校では、充実した部活動ができるよう、各部への支援ができています。
	3年生	
	保護者	丸亀高校の部活動は、参加を希望する生徒の心身の健全な育成を図るために有効であった。
特別活動 F 2	教員	丸亀高校では、生徒会の活動を通して、生徒の自主・自律の精神が育成されている。
	3年生	丸亀高校の生徒会では、自由役員を含む生徒会役員と、それに協力する本校生徒を中心として、自主的・自律的な態度を育成する学校行事が適切に運営されていた。
	保護者	丸亀高校では、自由役員を含む生徒会役員と、それに協力する本校生徒を中心として、自主的・自律的な態度を育成する学校行事が適切に運営されていた。

R5年度					R4年度					R3年度				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
70.0%	26.7%	0.0%	0.0%	3.3%	55.0%	35.0%	2.5%	2.5%	5.0%	69.6%	30.4%	0.0%	0.0%	0.0%
49.6%	28.7%	9.0%	1.5%	5.6%	53.8%	29.9%	10.4%	1.6%	4.4%	64.1%	24.8%	9.9%	0.0%	1.1%
83.9%	16.1%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	35.0%	2.5%	2.5%	0.0%	50.0%	39.1%	10.9%	0.0%	0.0%
70.1%	19.4%	4.5%	0.4%	3.0%	51.8%	30.3%	14.3%	0.4%	3.2%	69.1%	22.1%	6.1%	0.8%	1.9%
48.4%	45.2%	0.0%	0.0%	6.5%	40.0%	50.0%	5.0%	2.5%	2.5%	37.0%	47.8%	13.0%	0.0%	2.2%
32.8%	37.3%	17.2%	3.0%	8.2%	35.2%	37.2%	16.8%	4.4%	6.4%	51.5%	31.2%	11.2%	2.3%	3.8%
41.9%	41.9%	6.5%	0.0%	9.7%	42.5%	35.0%	7.5%	7.5%	7.5%	30.4%	54.3%	8.7%	0.0%	6.5%
45.2%	41.9%	0.0%	3.2%	9.7%	42.5%	35.0%	10.0%	2.5%	10.0%	41.3%	47.8%	6.5%	0.0%	4.3%
25.8%	51.6%	19.4%	0.0%	3.2%	30.0%	42.5%	22.5%	5.0%	0.0%	26.1%	52.2%	17.4%	4.3%	0.0%
46.3%	34.7%	11.9%	1.5%	1.9%	33.9%	40.7%	19.8%	1.6%	4.0%	56.1%	33.2%	7.6%	1.1%	1.9%
39.5%	39.5%	7.0%	1.1%	13.0%	33.2%	37.0%	11.5%	0.5%	17.8%	37.4%	38.4%	9.5%	1.1%	13.7%
41.9%	51.6%	3.2%	0.0%	3.2%	60.0%	35.0%	0.0%	5.0%	0.0%	52.2%	45.7%	2.2%	0.0%	0.0%
57.1%	32.5%	6.0%	1.5%	1.1%	53.6%	35.3%	7.9%	0.8%	2.4%	71.1%	22.8%	4.6%	0.4%	1.1%
44.3%	38.9%	4.3%	2.7%	9.7%	35.6%	38.0%	11.1%	0.0%	15.4%	42.1%	42.1%	5.8%	0.5%	9.5%
48.4%	45.2%	3.2%	0.0%	3.2%	57.5%	35.0%	2.5%	2.5%	2.5%	56.5%	39.1%	4.3%	0.0%	0.0%
51.9%	33.2%	9.3%	1.1%	2.6%	45.8%	37.5%	10.7%	1.6%	4.3%	62.5%	26.1%	9.6%	0.0%	1.9%
43.8%	32.4%	5.9%	1.1%	16.8%	30.3%	38.9%	11.5%	0.0%	19.2%	38.4%	40.5%	7.9%	0.5%	12.6%
45.2%	51.6%	0.0%	0.0%	3.2%	52.5%	45.0%	2.5%	0.0%	0.0%	47.8%	50.0%	2.2%	0.0%	0.0%
63.8%	25.4%	4.9%	1.1%	4.9%	53.8%	34.6%	4.8%	1.0%	5.8%	57.9%	36.3%	2.1%	0.5%	3.2%
64.5%	29.0%	0.0%	0.0%	6.5%	47.5%	42.5%	7.5%	0.0%	2.5%	43.5%	45.7%	8.7%	0.0%	2.2%
68.3%	19.4%	2.6%	0.7%	4.5%	66.5%	22.0%	5.1%	0.8%	5.5%	79.2%	17.7%	1.9%	0.8%	0.4%
59.5%	29.7%	2.7%	1.1%	6.5%	46.6%	37.5%	5.3%	0.5%	10.1%	54.7%	37.4%	3.2%	0.0%	4.7%

学校評価アンケート結果の比較（3年間）

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない

特別活動 F 3	教員	丸亀高校では、ホームルーム委員会を中心に生徒自身による充実したホームルームの企画・運営が実施されている。に
	3年生	丸亀高校のホームルーム活動では、ホームルーム委員会を中心とした、生徒による充実したホームルームの企画・運営を、実施できていた。
	保護者	
特別活動 F 4	教員	丸亀高校では、ふれあい委員会を中心としたボランティア活動を通して、生徒へのボランティア意識の啓発が図られている。
	3年生	丸亀高校では、全国高校総体ボランティア・募金活動・丸亀支援学校交流会等での活動を通してボランティアに関わる意識をうながす指導や雰囲気作りが行われていた。
	保護者	
人権・同和教育 G 1	教員	丸亀高校での、人権・同和教育ホームルームや講演会等を通じて、生徒は人権問題を自分の問題として捉え、人権意識を高めている。
	3年生	丸亀高校の、人権・同和教育ホームルームや講演会等は、人権に対する意識と理解を深めるのに役立った。
	保護者	丸亀高校の人権・同和教育ホームルームや人権講演会等は、生徒が人権に対する意識と理解を深めるのに役立った。
人権・同和教育 G 2	教員	丸亀高校では、現職教育・現地研修等を通して、人権・同和教育に関する教職員の知見を深め、指導力を向上させている。
	3年生	
	保護者	
人権・同和教育 G 3	教員	丸亀高校では、各教科・科目・校務分掌等に入権・同和教育の視点を取り入れることで、人権を意識した授業・学校運営を行っている。
	3年生	
	保護者	
教育相談 H 1	教員	丸亀高校では、教員相互の情報交換によって、援助を必要とする生徒の実態が把握されている。
	3年生	
	保護者	
教育相談 H 2	教員	丸亀高校では、援助が必要なケースにおいて、関係職員や保護者との連携により、状況に応じた支援ができています。
	3年生	
	保護者	
教育相談 H 3	教員	丸亀高校では、職員への現職教育や、個別のケース会議等により、教育相談的な理解を深めている。
	3年生	
	保護者	
保健 J 1	教員	丸亀高校では、生徒の健康管理に関する指導・支援を適切に行っている。
	3年生	丸亀高校では、生徒が主体的に健康管理できるように、指導・支援が行われていた。
	保護者	丸亀高校では、生徒の健康管理に関する指導・支援が適切に行われていた。
保健 J 2	教員	丸亀高校では、地震や火災などの非常時に対する準備と行動について、指導が行われている。
	3年生	丸亀高校で行われた防災訓練等は、地震や火災などの非常時に対する準備と行動について、理解を深めるのに役立った。
	保護者	
保健 J 3	教員	丸亀高校では、積極的な清掃活動により、生徒の環境美化に対する意識を高め、学校の生活環境を整えることができています。
	3年生	丸亀高校の校内生活環境は、生徒の清掃活動等により整えられていた。
	保護者	
その他 K 1	教員	丸亀高校では、職員会議や学年団会、職員朝礼などを通して、教職員の意思疎通を十分に図れている。
	3年生	
	保護者	

R5年度					R4年度					R3年度				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
64.5%	32.3%	0.0%	0.0%	3.2%	50.0%	40.0%	5.0%	0.0%	5.0%	52.2%	39.1%	4.3%	0.0%	4.3%
73.5%	17.5%	2.2%	0.7%	1.5%	72.8%	21.7%	3.9%	0.4%	1.2%	80.9%	17.2%	1.9%	0.0%	0.0%
74.2%	22.6%	0.0%	0.0%	3.2%	37.5%	42.5%	15.0%	0.0%	5.0%	34.8%	41.3%	17.4%	0.0%	6.5%
35.4%	37.3%	19.0%	2.2%	2.6%	26.4%	30.9%	33.7%	1.2%	7.7%	45.8%	29.2%	19.6%	1.2%	4.2%
67.7%	32.3%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	45.0%	0.0%	0.0%	5.0%	50.0%	45.7%	0.0%	0.0%	4.3%
67.2%	22.0%	4.5%	0.7%	3.7%	59.7%	28.5%	8.3%	0.4%	3.2%	73.7%	22.1%	3.4%	0.0%	0.8%
51.4%	35.7%	4.9%	0.5%	7.6%	38.9%	38.9%	8.2%	0.5%	13.5%	48.9%	38.9%	4.2%	0.0%	7.9%
61.3%	35.5%	0.0%	0.0%	3.2%	37.5%	47.5%	7.5%	0.0%	7.5%	39.1%	45.7%	6.5%	0.0%	8.7%
51.6%	48.4%	0.0%	0.0%	0.0%	35.0%	52.5%	10.0%	0.0%	2.5%	34.8%	52.2%	10.9%	0.0%	2.2%
58.1%	41.9%	0.0%	0.0%	0.0%	62.5%	35.0%	2.5%	0.0%	0.0%	63.0%	32.6%	2.2%	0.0%	2.2%
61.3%	35.5%	0.0%	0.0%	3.2%	65.0%	30.0%	5.0%	0.0%	0.0%	63.0%	30.4%	4.3%	0.0%	2.2%
64.5%	35.5%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	37.5%	2.5%	0.0%	0.0%	60.9%	34.8%	2.2%	0.0%	2.2%
67.7%	29.0%	0.0%	0.0%	3.2%	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	65.2%	34.8%	0.0%	0.0%	0.0%
50.7%	32.8%	7.5%	0.0%	2.2%	45.4%	39.0%	10.4%	0.4%	4.8%	69.5%	22.1%	6.5%	0.8%	1.1%
44.9%	38.9%	3.2%	1.1%	11.9%	38.5%	40.4%	10.1%	1.0%	10.1%	45.8%	42.6%	3.7%	1.1%	6.8%
54.8%	32.3%	12.9%	0.0%	0.0%	50.0%	40.0%	7.5%	2.5%	0.0%	50.0%	39.1%	8.7%	2.2%	0.0%
54.5%	31.0%	8.2%	0.4%	4.5%	45.1%	40.3%	11.1%	0.4%	3.2%	74.4%	22.5%	2.7%	0.0%	0.4%
45.2%	45.2%	9.7%	0.0%	0.0%	40.0%	50.0%	10.0%	0.0%	0.0%	39.1%	50.0%	10.9%	0.0%	0.0%
65.7%	24.3%	3.4%	1.9%	3.0%	60.1%	31.2%	4.3%	1.6%	2.8%	73.5%	22.3%	3.5%	0.8%	0.0%
54.8%	32.3%	9.7%	0.0%	3.2%	37.5%	60.0%	2.5%	0.0%	0.0%	37.0%	58.7%	4.3%	0.0%	0.0%

学校評価アンケート結果の比較（3年間）

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない

その他 K 2	教員	丸亀高校では、面接指導を通して、進路や学習指導、生徒理解を深められている。
	3年生	丸亀高校での、教員との面接は、進路や学習の相談、生活設計にプラスになった。
	保護者	
その他 K 3	教員	丸亀高校における、学校行事の年間スケジュールには、昨年度の反省が反映されている。
	3年生	
	保護者	
その他 K 4	教員	丸亀高校における65分授業は、生徒に学習内容を理解・定着させるために効果的である。
	3年生	丸亀高校における65分授業は、学習内容の理解・定着に役立った。
	保護者	
その他 K 5	教員	丸亀高校では、授業を中心とした適切な学習指導が行われていた。
	3年生	丸亀高校では、適切な学習指導が行われていた。
	保護者	丸亀高校では、授業を中心とした適切な学習指導が行われていた。
その他 K 6	教員	丸亀高校における、2年次の習熟度別授業(数学)は、学習内容の理解・定着を促すための有効な取り組みである。
	3年生	丸亀高校における2年次の習熟度別授業(数学)は、学習内容の理解・定着に役立った。
	保護者	
その他 K 7	教員	丸亀高校では、1年次のホームルームを通じて、生徒は進路について考えることができた。
	3年生	
	保護者	
その他 K 8	教員	丸亀高校では、1・2年次の「総合的な探究の時間」は、探究的・協働的な学びを促すための有効な取り組みである。
	3年生	丸亀高校での、1・2年次の「総合的な探究の時間」では、他者との協働を通して、現代の諸課題について考えを深め、発表することができた。
	保護者	
その他 K 9	教員	いじめ防止に向けた取り組みが積極的に行われている。
	3年生	丸亀高校では、いじめ防止のための啓発活動や、いじめを訴えやすい環境づくりを行っていた。
	保護者	丸亀高校では、いじめ防止のための啓発活動や、いじめを訴えやすい環境づくりを行っていた。
その他 K 10	教員	
	3年生	丸亀高校では、文武両道を実現させるための適切な指導・助言が行われていた。
	保護者	丸亀高校では、文武両道を実現させるための適切な指導・助言が行われていた。
その他 K 11	教員	
	3年生	丸亀高校での生活は満足いくものだった。
	保護者	丸亀高校での生活は、満足いくものだった。

R5年度					R4年度					R3年度				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
67.7%	25.8%	3.2%	0.0%	3.2%	62.5%	35.0%	0.0%	0.0%	2.5%	65.2%	32.6%	0.0%	0.0%	2.2%
70.1%	20.1%	4.1%	1.1%	0.7%	67.6%	25.3%	4.0%	0.0%	3.2%	73.0%	21.3%	3.8%	0.4%	1.5%
35.5%	48.4%	6.5%	3.2%	6.5%	40.0%	42.5%	12.5%	0.0%	5.0%	39.1%	43.5%	13.0%	0.0%	4.3%
38.7%	41.9%	9.7%	0.0%	9.7%	35.0%	42.5%	20.0%	2.5%	0.0%	32.6%	41.3%	19.6%	2.2%	4.3%
39.6%	34.7%	16.4%	4.5%	2.2%	41.0%	37.5%	15.5%	2.8%	3.2%	51.9%	32.1%	12.6%	0.8%	2.7%
67.7%	32.3%	0.0%	0.0%	0.0%	57.5%	42.5%	0.0%	0.0%	0.0%	58.7%	41.3%	0.0%	0.0%	0.0%
65.7%	27.6%	3.7%	0.7%	1.1%	52.6%	33.6%	8.7%	0.8%	4.3%	74.4%	20.2%	3.8%	0.8%	0.8%
60.5%	27.0%	5.4%	1.1%	5.9%	45.7%	38.5%	6.3%	1.0%	8.7%	53.2%	37.4%	4.2%	0.5%	4.7%
51.6%	9.7%	0.0%	3.2%	35.5%	32.5%	32.5%	2.5%	2.5%	30.0%	32.6%	32.6%	2.2%	2.2%	30.4%
58.6%	24.6%	9.0%	2.2%	2.6%	46.9%	31.9%	14.6%	2.0%	4.7%	66.4%	18.5%	7.7%	1.2%	6.2%
48.4%	29.0%	0.0%	0.0%	22.6%	37.5%	40.0%	2.5%	0.0%	20.0%	41.3%	39.1%	2.2%	0.0%	17.4%
32.3%	25.8%	16.1%	6.5%	19.4%	30.0%	42.5%	12.5%	0.0%	15.0%	28.3%	47.8%	10.9%	0.0%	13.0%
38.4%	39.6%	15.3%	2.2%	1.5%	44.4%	36.1%	15.5%	2.0%	2.0%	59.7%	31.2%	6.8%	1.5%	0.8%
58.1%	38.7%	0.0%	0.0%	3.2%	42.5%	55.0%	0.0%	0.0%	2.5%	39.1%	58.7%	0.0%	0.0%	2.2%
52.2%	30.6%	9.0%	2.2%	5.2%	46.0%	30.6%	15.1%	1.6%	6.7%	58.2%	29.5%	9.2%	0.8%	2.3%
44.9%	27.6%	3.8%	1.1%	22.7%	31.3%	35.6%	9.1%	1.0%	23.1%	36.8%	39.5%	6.8%	0.5%	16.3%
46.6%	30.6%	13.8%	1.9%	3.0%	48.8%	32.1%	15.1%	1.6%	2.4%	60.5%	26.4%	11.9%	0.8%	0.4%
53.5%	33.0%	8.1%	1.1%	4.3%	45.7%	38.9%	8.7%	0.5%	6.3%	46.3%	40.0%	7.9%	2.6%	3.2%
73.5%	18.3%	1.9%	0.7%	2.2%	59.7%	30.0%	6.3%	1.2%	2.8%	75.1%	19.5%	3.4%	0.8%	1.1%
69.2%	23.8%	2.2%	0.5%	4.3%	51.9%	38.0%	6.3%	0.5%	3.4%	61.1%	34.2%	2.1%	0.5%	2.1%

令和5年度学校評価アンケート用紙【教員対象】集計結果（数値は％です） 解答数34

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない（判断できない）

識別番号		評価項目	解答欄					
			①	②	③	④	⑤	
総務	A 1	P T A 総会やP T A だより、学校ホームページの更新や学校配信メール等を通して、学校の実態を保護者に発信し、その理解・協力を得られている。	80.6	19.4	0.0	0.0	0.0	
	A 2	丸亀高校には、学習環境を整えるためにふさわしい施設・設備・備品があり、大切に使われている。	64.5	32.3	3.2	0.0	0.0	
教務	B 1	校務支援システムは、本校の実情に応じて改訂・調整され、校務実施の助けとなっている。	45.2	45.2	6.5	0.0	3.2	
	B 2	生徒の適性や進路目標を踏まえ、豊かな情操を養うことに留意して、教育課程を編成し、適切に運用できている。	51.6	41.9	0.0	0.0	6.5	
	B 3	授業やH R における教師の指導や、「T P (総合的な探究の時間)」等での外部講師による講演会は、生徒の学習意欲と進路意識の高揚につながっている。	41.9	51.6	0.0	3.2	3.2	
	B 4	丸亀高校では、学校案内の発行等により、中高連携を図っている。	48.4	38.7	0.0	0.0	12.9	
	B 5	丸亀高校のシラバスは、生徒が1年間の学習計画を理解するために役立っている。	29.0	51.6	12.9	3.2	3.2	
	B 6	一人一台端末の導入を含めた授業等におけるI C T 機器の活用は、授業改善及び生徒の学びの改善につながっている。	54.8	45.2	0.0	0.0	0.0	
進路指導	C 1	進路ホームルーム・コース選択説明会・キャンパスツアー等は、生徒が自らの志望と適性を見つめつつ、自らの進路目標を具体化させることに、有益である。	58.1	41.9	0.0	0.0	0.0	
	C 2	学習状況調査・進路ホームルーム・課外・面接等は、生徒の自律的な学習習慣の確立への力となっている。	51.6	45.2	0.0	0.0	3.2	
	C 3	丸亀高校では、生徒が自分の将来を考え、その実現のために努力ができるような指導が行われている。	51.6	45.2	0.0	0.0	3.2	
	C 4	丸亀高校での3年間の指導は、生徒を学力的・社会的・人間的に成長させるのに効果的である。	45.2	51.6	0.0	0.0	3.2	
教育研究	D 1	丸亀高校では、図書館便り・読書感想文・学級文庫・読書の時間・サテライト図書室等を利用して、読書活動を推進している。	70.0	26.7	0.0	0.0	3.3	
	D 2	丸亀高校では、授業での活用を図るため、情報機器、視聴覚機器を充実させている。	83.9	16.1	0.0	0.0	0.0	
	D 3	丸亀高校では、生徒からの授業評価や、公開授業等を実施し、授業改善が図られている。	48.4	45.2	0.0	0.0	6.5	
	D 4	丸亀高校では、英検等の検定による生徒の資格取得や、科学の甲子園等への参加を促す活動を行っている。	41.9	41.9	6.5	0.0	9.7	
	D 5	丸亀高校で実施された研究授業・授業参観などは、本校職員の授業力向上に役だっている。	45.2	41.9	0.0	3.2	9.7	
生徒指導	E 1	丸亀高校では、生徒が自発的なあいさつを行い、相手を尊重した言動をとることができるようになるための指導が行われている。	25.8	51.6	19.4	0.0	3.2	
	E 2	丸亀高校では、早朝登校指導や校外交通立哨、服装検査等、外部講師を招聘しての講演会等を実施し、生徒の規範意識の維持・向上に努めている。	41.9	51.6	3.2	0.0	3.2	
	E 3	丸亀高校では、交通指導、自転車運転免許講習や自転車交通安全教室等の交通ホームルームを行い、生徒の交通マナーの向上や事故防止への意識付けが図られている。	48.4	45.2	3.2	0.0	3.2	

識別番号		評価項目	解答欄					
			①	②	③	④	⑤	
特別活動	F 1	丸亀高校では、充実した部活動ができるよう、各部への支援ができています。	45.2	51.6	0.0	0.0	3.2	
	F 2	丸亀高校では、生徒会の活動を通して、生徒の自主・自律の精神が育成されている。	64.5	29.0	0.0	0.0	6.5	
	F 3	丸亀高校では、ホームルーム委員の指導を通して、生徒自身による充実したホームルームの企画・運営が実施されている。	64.5	32.3	0.0	0.0	3.2	
	F 4	丸亀高校では、ふれあい委員会を中心としたボランティア活動を通して、生徒へのボランティア意識の啓発が図られている。	74.2	22.6	0.0	0.0	3.2	
人権・同和教育	G 1	丸亀高校での、人権・同和教育HRや講演会等を通じて、生徒は人権問題を自分の問題として捉え、人権意識を高めている。	67.7	32.3	0.0	0.0	0.0	
	G 2	丸亀高校では、現職教育・現地研修等を通して、人権・同和教育に関する教職員の知見を深め、指導力を向上させている。	61.3	35.5	0.0	0.0	0.0	
	G 3	丸亀高校では、各教科・科目・校務分掌等に人権・同和教育の視点を取り入れることで、人権を意識した授業・学校運営を行っている。	51.6	48.4	0.0	0.0	0.0	
教育相談	H 1	丸亀高校では、教員相互の情報交換によって、援助を必要とする生徒の実態が把握されている。	58.1	41.9	0.0	0.0	0.0	
	H 2	丸亀高校では、援助が必要なケースでは、関係職員や保護者との連携により、状況に応じた支援ができています。	61.3	35.5	0.0	0.0	3.2	
	H 3	丸亀高校では、職員への現職教育や、個別のケース会議等により、教育相談的な理解を深めている。	64.5	35.5	0.0	0.0	0.0	
保健	J 1	丸亀高校では、生徒の健康管理に関する指導・支援を適切に行っている。	67.7	29.0	0.0	0.0	3.2	
	J 2	丸亀高校では、地震や火災などの非常時に対する準備と行動について、指導がされている。	54.8	32.3	12.9	0.0	0.0	
	J 3	丸亀高校では、積極的な清掃活動により、生徒の環境美化に対する意識を高め、学校の生活環境を整えることができている。	45.2	45.2	9.7	0.0	0.0	
その他	K 1	丸亀高校では、職員会議や学年団会、職員朝礼などを通して、教職員の意思疎通を十分に図れている。	54.8	32.3	9.7	0.0	3.2	
	K 2	丸亀高校では、教員は面接指導を通して、進路や学習指導、生徒理解を深められている。	67.7	25.8	3.2	0.0	3.2	
	K 3	丸亀高校における、学校行事の年間スケジュールには、昨年度の反省が反映されている。	35.5	48.4	6.5	3.2	6.5	
	K 4	丸亀高校における、65分授業は、生徒に学習内容を理解・定着させるために効果的である。	38.7	41.9	9.7	0.0	9.7	
	K 5	丸亀高校では、授業を中心とした適切な学習指導が行われていた。	67.7	32.3	0.0	0.0	0.0	
	K 6	丸亀高校における、2年次の習熟度別授業(数学)は、学習内容の理解・定着を促すための有効な取り組みである。	51.6	9.7	0.0	3.2	35.5	
	K 7	丸亀高校では、1年次のホームルームを通じて、生徒は進路について考えることができている。	48.4	29.0	0.0	0.0	22.6	
	K 8	丸亀高校では、1・2年次の「総合的な探究の時間」は、探究的・協働的な学びを促すための有効な取り組みである。	32.3	25.8	16.1	6.5	19.4	
	K 9	いじめ防止に向けた取り組みが積極的に行われている。	58.1	38.7	0.0	0.0	3.2	
その他	その他、ご意見があればお書きください。 ・学校行事等の反省事項を集約し、次年度に向けて職員の共通理解ができるようにしてほしい。 ・総合的な探究の時間は、生徒も教員もどうしていいかわからず、双方が困っているように思える。							

令和5年度学校評価アンケート用紙【3年生】集計結果（数値は%です） 回答数268

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない（判断できない）

番号	評価項目	解答欄					④の理由をお願いします
		①	②	③	④	⑤	
1	丸亀高校では、生徒の適性や進路目標を踏まえ、かつ豊かな情操を養うことに留意した教育課程が編成されている。	54.9	33.6	5.6	1.1	2.2	
2	丸亀高校では、年度当初に配られたシラバスをみることで、年間の授業計画の概要を理解することができた。	60.8	27.6	7.1	1.5	1.1	・計画の変更が多かった。 ・実際の授業内容と違うものがあった。
3	丸亀高校での教員との面接は、進路や学習の相談、生活設計にプラスになった。	70.1	20.1	4.1	1.1	0.7	・美術大学志望だったから。
4	丸亀高校では、学習状況調査や進路ホームルーム、面接など、生徒が継続的な学習が行えるよう、適切な学習指導が行われていた。	65.7	24.6	5.2	0.4	1.9	
5	丸亀高校における65分授業は、学習内容の理解・定着に役立った。	39.6	34.7	16.4	4.5	2.2	・長すぎて集中力がもたない。 ・50分でできる内容を65分かけてするから。 ・長すぎてまとまりがない。 ・復習が追いつかない。
6	丸亀高校では、適切な学習指導が行われていた。	65.7	27.6	3.7	0.7	1.1	・教科書の内容ではない講義をする授業もあるため。
7	丸亀高校で行われた、生徒からの授業評価は、授業に活かされていた。	32.8	37.3	17.2	3.0	8.2	・ほとんど改善されなかった。 ・アンケート項目の見直しが必要。 ・全く改善されなかった授業もある。
8	丸亀高校における2年次の習熟度別授業(数学)は、学習内容の理解・定着に役立った。	58.6	24.6	9.0	2.2	2.6	・変わらないと思う。 ・進むスピードもあまり変わらないし、テスト範囲を合わせるために進まなかったりする。
9	丸亀高校での、1・2年次の「総合的な探究の時間」は、他者との協働を通して、現代の諸課題について考えを深め、発表することができた。	38.4	39.6	15.3	2.2	1.5	・ほとんどの人はやつつけにしているだけ。やらないほうがいいと思う。 ・授業時間が少ない。 ・人間関係が悪くなった。
10	丸亀高校における、進路ホームルーム・コース選択説明会・キャンパスツアー等の行事は、自らの進路について考えるよい機会となった。	58.2	28.4	7.8	1.1	3.0	・美術大学志望だったから。
11	丸亀高校では、生徒が自分の将来を考え、その実現のための努力ができるような指導が行われていた。	63.8	27.2	4.5	1.1	2.2	
12	丸亀高校では、文武両道を実現させるための適切な指導・助言が行われていた。	46.6	30.6	13.8	1.9	3.0	
13	丸亀高校では、服装の整備や時間厳守(遅刻)、私物の整理等、学校生活に集中することをうながす指導や雰囲気作りが行われていた。	57.1	32.5	6.0	1.5	1.1	・やむを得ず連絡できなかった場合でも早朝登校は重すぎると思う。 ・化粧をしている生徒もいるから。 ・校則の見直しは必要だと思う。
14	丸亀高校では、全国高校総体ボランティア・募金活動・丸亀支援学校交流会等での活動を通してボランティアに関わる意識をうながす指導や雰囲気作りが行われていた。	35.4	37.3	19.0	2.2	2.6	・強制的なものがあつたのはいかなるものか。
15	丸亀高校では、自発的なあいさつや、相手を尊重した言動をとることをうながす指導や雰囲気作りが行われていた。	46.3	34.7	11.9	1.5	1.9	
16	丸亀高校における交通指導や自転車運転免許講習、自転車交通安全教室等の交通ホームルームは、生徒の事故防止への意識付けや、交通マナーの向上に有効だった。	51.9	33.2	9.3	1.1	2.6	
17	学校は、いじめ防止のため、啓発活動やいじめを訴えやすい環境づくりを行っていた。	52.2	30.6	9.0	2.2	5.2	

番号	評価項目	解答欄					④の理由をお願いします
		①	②	③	④	⑤	
18	丸亀高校の、人権・同和教育ホームルームや講演会等は、人権に対する意識と理解を深めるのに役立った。	67.2	22.0	4.5	0.7	3.7	
19	丸亀高校で行われた防災訓練等は、地震や火災などの非常時に対する準備と行動について理解を深めるのに役立った。	54.5	31.0	8.2	0.4	4.5	
20	丸亀高校の生徒会では、自由生徒会役員を含む生徒会役員を中心として、自主的・自律的な態度を育成する学校行事が適切に運営されていた。	68.3	19.4	2.6	0.7	4.5	・自主的・自律的ではなかった。
21	丸亀高校のホームルーム活動では、ホームルーム委員会を中心とした、生徒による充実したホームルームの企画・運営を実施できていた。	73.5	17.5	2.2	0.7	1.5	・生徒に任せすぎだと思う。
22	丸亀高校の校内生活環境は、生徒の清掃活動等により、整えられていた。	65.7	24.3	3.4	1.9	3.0	・掃除できてないトイレがある。 ・掃除・修理が行届いてないところがある。
23	丸亀高校では、生徒が主体的に健康管理できるように、指導・支援が行われていた。	50.7	32.8	7.5	0.0	2.2	
24	丸亀高校の図書館便り電子版・読書感想文・学級文庫・読書の時間・サテライト図書室などは、読書のために有効であった。	49.6	28.7	9.0	1.5	5.6	
25	丸亀高校の授業・行事で活用された、プロジェクターやタブレット等の情報機器や視聴覚機器は、理解を深めるために有効だった。	70.1	19.4	4.5	0.4	3.0	
26	丸亀高校の施設・設備・備品は、大切に使われていた。	72.0	19.0	3.0	0.0	1.9	
27	丸亀高校での生活は満足いくものだった。	73.5	18.3	1.9	0.7	2.2	
	その他、意見があれば、書いてください。 ・式典の際は、床が冷えているので立ちっぱなしにしてほしい。 ・丸高に入学してよかった。 ・敷地内で車のスピードを落としてほしい。						

令和5年度学校評価アンケート用紙【3年生保護者】集計結果（数値は%です）回答数185

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない（判断できない）

番号	評価項目	解答欄					④の理由をお願いします
		①	②	③	④	⑤	
1	丸亀高校では、PTA総会やPTAだより、学校ホームページの更新や学校配信メール等を通して、学校の情報を知ることができた。	55.7	34.1	8.1	1.1	1.1	
2	丸亀高校における授業のカリキュラムは、生徒の適性や進路目標、そして情操に配慮した教育課程（授業のカリキュラム）を編成し、適切に運用されていた。	44.9	40.5	6.5	3.2	4.9	共通テスト前3日間に卒業試験を行うのはどうかと思う。
3	丸亀高校では、授業を中心とした適切な学習指導が行われていた。	60.5	27.0	5.4	1.1	5.9	
4	丸亀高校では、生徒に学習習慣が確立するよう、適切な学習指導が行われていた。	52.4	35.1	6.5	1.1	4.9	
5	丸亀高校における、進路説明会・コース選択説明会等の行事は、進路について考えるよい機会となった。	64.3	25.9	6.5	1.1	2.2	・申込み締め切りについて、対応が不適切だった。
6	丸亀高校では、生徒が自発的なあいさつを行ったり、相手を尊重した言動をとれるようになったりするための助けとなるような雰囲気作りや指導が行われていた。	39.5	39.5	7.0	1.1	13.0	・校内で会っても自発的なあいさつはなかった。
7	丸亀高校では、早朝登校指導や校外交通立哨、服装検査等、生徒に基本的な生活習慣が身につくような指導が行われていた。	44.3	38.9	4.3	2.7	9.7	・もう少し厳しく指導してほしい。
8	丸亀高校における、交通指導、自転車運転免許講習、自転車交通安全教室等の交通ホームルームは、生徒が交通事故防止を意識したり、交通マナーを向上させたりするために有効だった。	43.8	32.4	5.9	1.1	16.8	
9	学校は、いじめ防止のため、啓発活動やいじめを訴えやすい環境づくりを行っていた。	44.9	27.6	3.8	1.1	22.7	
10	丸亀高校の、人権・同和教育ホームルームや人権講演会等は、生徒が人権に対する意識と理解を深めるのに役立った。	51.4	35.7	4.9	0.5	7.6	
11	丸亀高校では、文武両道を実現させるための適切な指導・助言が行われていた。	53.5	33.0	8.1	1.1	4.3	
12	丸亀高校の部活動は、参加を希望する生徒の心身の健全な育成を図るために有効であった。	63.8	25.4	4.9	1.1	4.9	
13	丸亀高校では（自由役員を含む生徒会役員と、それに協力する本校生徒を中心として）自主的・自律的な態度を育成する学校行事が、適切に運営されていた。	59.5	29.7	2.7	1.1	6.5	
14	丸亀高校では、生徒の健康管理に関する指導・支援が適切に行われていた。	44.9	38.9	3.2	1.1	11.9	
15	丸亀高校には、学習環境を整えるためにふさわしい施設・設備・備品が整備されていた。	51.9	37.3	4.3	2.7	3.8	文系クラス人数と教室の大きさが合っていない。 災害時が心配。
16	丸亀高校では、生徒が自分の将来を考え、その実現のために努力ができるような指導が行われていた。	56.2	31.9	5.4	1.6	4.9	
17	生徒は、この3年間に様々な経験を経て、学力的・社会的・人間的に成長できた。	69.7	25.9	1.1	1.6	1.6	問題が発生しても対応が甘い。
18	丸亀高校での生活は、満足いくものだった。	69.2	23.8	2.2	0.5	4.3	

その他ご意見があればお書きください。

- ・3年間野球部の先生方に熱心にご指導していただいたおかげで、心身ともに鍛えられた。授業の先生方や担任の先生にもお世話になり、充実した高校生活を過ごすことができた。ありがとうございました。
- ・「丸亀高校では」という問いに対しては、コロナ期間も長かったため、分からないままのことが多かったと思うが、担任の先生のご指導や助言はとても満足できたし、子どもにとっても勇気づけられることが多かった。
- ・せっかく購入したタブレットの活用法がもう少しあったのでは、と感じた。
- ・子どもから話を聞くことが少なく、「わからない」が多くなってしまったが、毎日楽しそうだったので、安心して3年間送り出せました。
- ・面談時に駐車場が遠いのが困る。
- ・とても穏やかに学校生活を過ごすことができた。周りの仲間とも切磋琢磨して勉強や部活に向き合えていたので良かった。3年間ありがとうございました。
- ・良い友人関係、学習環境、部活動、行事など、恵まれた3年間にありがとうございました。
- ・3年間とても充実した毎日を過ごせていたと感じられ、親としては喜ばしい限りです。ありがとうございました。

1 構成 学校評議員4名

2 評価の内容

【教育課程】

(磯崎) 4年ぶりに通常の生活が戻り、新学習指導要領2年目の教育課程が生徒の適性や進路目標を踏まえた上で実施できたようです。また、保護者にそれを周知することで、理解が深められていたことがアンケート結果からうかがえます。

(広谷) 今年度は、チャットGPTなどAIが本格的に人間社会に組み込まれてきた年でもありました。いつの間にか生徒の進度や評価に至るまで「端末」が「効率的に」行っています。私自身は懐疑的ですが、このツールによって何が新しく生まれ、学びの環境をより良くするのか常に問いかけてほしいと思います。

(森貞) ICT機器の活用が進んでおり、とても良い取り組みだと思います。次年度以降も継続していただければと思います。

【学習指導】

(大川) 今回の共通テストは成績が良かったとか、校外模試の結果が向上したなど、ずいぶん生徒の学力が伸びていることが分かり、先生方の熱心なご指導を頼もしく思います。今後、各教科の学力を伸長させるとともに、社会の動きや自然現象など自分の身の周りで起こっていることとの関連を、これまで以上に生徒たちに意識させて授業を進めてほしいと思います。というのは、先日のTP発表会で感じたのは、生徒のプレゼン資料や発表の仕方などの技術的なものは非常に優れているのですが、それに比べると、根本的なところでの世の中への理解とか実感が乏しいという印象を持ちました。高校生だから仕方ないのですが、技術的なものが立派なだけに、そういう部分が余計に貧弱に見えるのです。折に触れて、自分が今高校で学習していることが、世の中や自分の将来とどう関わっているのかということを意識しながら学習に取り組ませていただきたいと思います。

(磯崎) 今年度は全学年の生徒が一人1台の端末を持ち、教員研修を経て、各教科でICT教育が効果的に進められていると感じます。シラバスはよく練られており、学習方法や年間学習計画及び到達目標が明確に示されています。2、3学年ではPDFデータ配信がなされ、より効果的に活用できるようになっています。さらに効果を高めるために、自己の到達度を單元ごとに到達目標と照らし合わせ、生徒が自己評価する時間をとってみてはいかがでしょうか。

総合的な探究の時間については、生徒が主体的に計画し、情報を収集・分析することでまとめられています。発表を聞いて感じたのは、課題設定に始まり、情報の収集の仕方、整理・分析の方法、まとめ方やその表現の仕方などにおいて、生徒によって取り組み方に温度差があるということです。また、フィールドワークや標本調査の標本の取り方などにも課題がある班がありました。この探究活動が生徒が進路選択をする上で有効な時間になることを願います。

生徒が望む授業改善については、アンケートを取るときに具体的に困っていることや改善してほしいことの記述欄を設けてみてはいかがでしょうか。

(広谷) 「リモート」など、コロナ禍を通じて定着したシステムは、リアル対話の重要性を証明しましたが、同時に、タブレット等を使った新しい学習体系も進化させたことになるのでしょうか。コロナ禍以上の、より強く確かな体系の模索を期待します。

(森貞) 各教科、それぞれきちんと成果・改善点があり、次年度以降より良い指導をしていただければと思います。

【進路指導】

(磯崎) コロナ禍で実施できなかった大学のキャンパスツアーが再開され、参加者が50名を超えるなど、生徒たちの意識の高さがうかがえます。OBの財務官僚の仕事を見学して直接話を聞くなどの体験は、良い刺激になったに違いありません。進路ホームルーム・進路説明会・コース選択説明会についても、教員・生徒・保護者ともに高評価であることから、情報の伝達が十分になされていると感じました。また、生徒たちは教員との面接は大いにプラスになると考えているようで、普段から生徒一人ひとりに寄り添う教員の姿勢が感じられます。

(広谷) 丸高では、最終学年は受験の準備だけの年なのだなあ、とつくづく思います。ならば、高校の役割とは何でしょうか？2年間で受験以外の何を学び、何を、どうやって獲得するのでしょうか？

(森貞) キャンパスツアーは生徒のモチベーション向上のためにも良い取り組みだと思います。

【生徒指導】

(磯崎) 挨拶・SNS上の問題・登下校時の自転車の危険運転については中学校でも苦慮しています。貴校ではSNS上の大きな問題が発生していないことから、普段の注意喚起が奏功していると言えるのではないのでしょうか。さらに、教員からの指導だけでなく、学級委員による呼びかけも良い効果を生んでいるようです。

(広谷) 評議員として丸高生を目にする機会も多くありましたが、自分の頃と比べても純朴なイメージは変わっておらず嬉しくなります。しかし、大人社会は以前とは桁違いの危険に満ちています。「子どもを守る」ことに全力で立ち向かわないとならない時代です。

(森貞) 特に交通指導は命にかかわることもあり、継続した指導をしていただければと思います。

【特別活動】

(磯崎) 今年度は、クラスの団結を高める行事がすべてコロナ禍前の規模で実施できたことが、生徒会活動において大変有意義であったようです。また、部活動についても文武両道の丸高生らしい活動・活躍ができていると思います。これがアンケート項目の「丸亀高校の生活において満足している」生徒の割合の高さや、各課程の新聞の内容にも表れており、生徒の生の声を通してその重要性を再認識させられました。

(広谷) コロナ禍の長いトンネルを抜けた、との思いが溢れた今年度。感染症拡大前の行事の規模に戻せた、との記述に胸を撫でおろしました。この渦中にあった3年間を無駄にはならなかった、と思わせてくれる高校生活であらんことを！

(森貞) さまざまな活動に熱心に取り組まれていると思います。

【開かれた学校づくり】

(磯崎) 公開授業は、保護者にとっては実際に学習の様子を知ることができる、またとない機会です。保護者の参観数がどの程度であったのか、学年や各課程ごとの出席率を知りたいと思いました。なお、定時制・通信制の公開授業は、紙面や口頭では分かり得ない授業の雰囲気、教員や他の生徒との関係性が見て取れ、安心できることから、中学生の進路選択の上でも重要だと思います。

PTAだより・新聞・学校ホームページや配信メールなどによって、十分に情報発信ができており、それが保護者の高評価につながっているようです。行事の様子もオンライン公開すれば、行事を参観できなかった保護者も学校の取り組みについての理解を深められると思われます。

(広谷) アンケートを有効に活用して、さまざまな活動、研究授業などに力を入れている様子がうかがえました。アンケートの「数字」からこぼれ落ちるものにも目を向ける余裕があれば、更に良いですね。

(森貞) アンケートに基づき、さまざまな分析をされていて良いと思います。今後もアンケートを参考にしつつ、改善していただければと思います。

【その他全般】

(大川) 保護者アンケートに、「せっかくタブレットを購入したのにもう少し活用法があったのでは」という記述がありました。タブレットを持たせた最初の学年なので、そういう意見が出ても仕方ないかもしれませんが、購入させた以上は責任をもって、そういう指摘にも応えていかなければならないと思います。

私自身としては、昨年度までと比べて、タブレットの活用にかなり熱心に取り組んでおられると感じました。教科や分掌の記述にも具体的な活用事例がいろいろと見られましたし、評議員会での報告でもそれは十分に伝わりました。教科の特性によって、それぞれ効果的な活用法が必ずあると思います。今後、授業の相互参観や意見交換などによって、さらなる有効活用を目指してください。

一方で、Classiなどのせっかくの便利なツールがあっても、学習時間を入力しない人がいるなど、それを利用する人の意欲がなければ、宝の持ち腐れになってしまいます。タブレットの利用に限らず、何事にもやる気を喚起して維持していくことは大切だと思いました。

(磯崎) 65分授業については、「学習内容の理解・定着に役立つ」と考えている生徒の割合が年々低下しているようです。1単位時間については検討の余地があるかもしれません。

問題を抱える生徒に気づき、情報を共有し、対策を立てて支援することが速やかにできているようです。学校でたくさんの人が気にかけてくれているという安心感は、何ものにも代え難いことでしょう。

(広谷) 最後にこんな話を。城南町に「城南書店街」というユニークな本屋ができ、そこでは数十名の「書店主」と呼ばれる個人が30センチ立方のスペースを借りて個人書店を出し、自分の薦める本を売っています。私も近頃その一店主になりました。ある金曜日の昼下がり、そこで一人の丸高生と出会いました。RCサクセションの名曲「トランジスタラジオ」は、「あ〜授業をサボって崖上にいたんだよ〜」と始まりますが、そこで彼は世界中の、教室には聞けない歌をラジオで聞くのです。大好きなその曲を思い出し、私はなんだか嬉しくなりました。そんな瞬間が青春には必要なのだと思います。そんな子どもたちを緩やかな視線で見守ってあげられる余裕を、こんな時代だからこそ持っていただけたら嬉しいです。